

特別養護老人ホームにおける利用者支援向上のためのケアワーク記録の活用に関する研究  
—援助者によるケア記録の活用を妨げる構造の解明—

研究代表者 北舘一弥(東京福祉大学大学院)

## 1. 研究の背景

今日の介護現場の援助<sup>1)</sup>は、より適切な援助を行うため、介護職・看護職など多様な専門職(以下、援助者)がケアプランをもとに連携<sup>2)</sup>・協働するケアマネジメントを基本とする。

この過程において、とりわけ「情報」という存在に着目すると、利用者ごとに排泄・食事・入浴・口腔ケア・余暇活動・相談・医療・服薬管理・栄養管理・リハビリなど必要な援助が異なるなかで、これらすべての援助を一人の援助者が提供することは困難である。なかでも、入所施設の利用者には、24時間365日切れ目のない援助が求められる。このため、利用者全員に一人の援助者が対応することは物理的に不可能であることから、常に介護職・看護職など複数人の専門職が利用者と関わる。

よって、援助者による連携・協働のもと一貫性・継続性のある援助を行ううえで、それに関わる情報は不可欠な資源であるとともに(北舘一弥 2017: 6)、情報がまったくない環境下で援助を適切に行うことは物理的に不可能といえる(特定非営利活動法人Uビジョン研究所 2007: 1-2)。

このため、援助者は今後の援助に必要な情報をケアワークに関する記録(以下、ケア記録)<sup>3)</sup>へ記述し、情報の収集・選択・発信・共有・分析・整理・蓄積に役立てている。すなわち、ケアプランの実践・評価と援助者間の連携・協働に必要な情報がケア記録へ記述されることから、組織規模でケア記録を活用<sup>4)</sup>することにより、援助の質的向上が期待できる。また、ケア記録の書き方を中心に解説した文献や、介護現場におけるケア記録の実態について調査した文献が多数存在するなかで、これらの先行研究でも援助の質的向上という観点からケア記録を活用する必要性が指摘されている(特定非営利活動法人Uビジョン研究所 2007)(富川雅美 2017)。

ただし、介護現場の援助は、先にも述べたが、多職種間の連携・協働を前提としたチームケアによるケアマネジメントが基本であるため、援助者が所属する事業所の福祉サービスを利用する利用者全員を、一人の援助者が対応することは不可能である。

すなわち、援助の質的向上にケア記録を活用するには、一人の援助者がそれに取り組んだ

<sup>1)</sup> 介護現場を含む社会福祉実践では一般に、利用者の代わりに援助者が何らかの対応を行う「援助」と、利用者が自身で打ち立てた目標に対して援助者が支持的に対応する「支援」が用語として用いられている。ただし、介護現場では、要介護度の高い利用者を対象とすることから、「支援」は「援助」に包摂される概念として本稿では扱う。

<sup>2)</sup> 援助者間の連携について、村井祐一(2005: 5)は「情報交換ならびに情報共有を行い、援助の方向性の調整を行った後、互いの役割を明確化してサービス提供を行う」と言及している。

<sup>3)</sup> 北舘(2017: 7)はケア記録について、「ケアワークを実践するうえで、アセスメント・モニタリング・カンファレンス・事故報告など様々な場面で援助者が用いる記録全般」と定義しているが、本稿では「介護現場において援助者がケアワークの実践に必要な情報を記述した記録物全般」と再定義する。具体的には、介護日誌・看護日誌・相談記録・カンファレンス記録・事故報告書・ケアプラン・栄養ケア計画など援助に関わる計画書や記録物全般を指す。

<sup>4)</sup> 活用について北舘(2017: 7)は、「特定の方法を効率的かつ効果的に用いて目的を実現すること」と定義しており、本稿でもこの定義を援用する。

としても、チームケアを前提とする介護現場では、その効果を得られないもしくは限定的である可能性が考えられる。よって、ケア記録の活用による効果を最大限に活かすには、その必要性や効果を事業所に所属する援助者全員が認識し、「ケア記録へ記述すべき内容・ケア記録の書き方・ケア記録に関わる教育や指導の方法」といった仕組みや運用体制を組織規模で整備する必要があると考える。

ただし、先述したケア記録に関する先行研究では、その組織的活用<sup>5)</sup>に関する方法・技術についての報告例は少なく、体系的に整理されていないのが現状である。よって、本研究はケア記録の組織的活用による援助の質的向上を目標に、それを介護現場で効率的・効果的に展開するための具体的な方法・技術を開発・体系化する。とりわけ、本稿はその基礎研究として、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像とこれらが生じる原因を明らかにする。

## 2. 研究の目的

本稿の目的は、先にも述べたが、介護現場におけるケア記録の効率的・効果的な組織的活用の方法・技術を開発・体系化するための基礎研究として、1) 援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像、2) これらが生じる原因の二点を明らかにすることである。

介護現場の援助は、多職種連携・協働を前提としたチームケアによるケアマネジメントが基本となる。したがって、援助者間で交わされる情報は、援助の質的向上という観点から組織規模で意識的に管理・活用される必要があり、その補助媒体として援助者はケア記録を用いる。すなわち、情報という視点で特養の援助を考察すると、ケア記録を基盤にその質的向上を図るうえで、各専門職が必要とする情報を、意識的に管理・活用する行為といえる。

ただし、ひとつの事業所あたり数名～数十名の援助者が従事し、各援助者の職種・年齢・実務経験・学歴・保有資格などの属性や勤務する時間帯が異なる。したがって、援助の質的向上にケア記録を活かすには、価値認識・運用体制・記述する内容・記述の方法・教育や指導のカリキュラムなどに関する指針を組織内で策定し、ケア記録に対する一定の共通認識を援助者間で共有する必要がある。また、これらの取り組みは、ケア記録の活用体制を組織規模で構築する際の根幹をなすものと考えられる。

しかし、多くの介護現場では、ケア記録を組織的に活用しようとする際に、「ケア記録の有用性を援助者が認識していない」「ケア記録を活用するための体制や仕組みがない」「ケア記録を作成する時間がない」「ケア記録に何を書けば良いかわからない」「どのように記述すれば良いかわからない」「どのように指導すれば良いかわからない」「転記作業が多くてケア記録の記述に時間を要する」などの課題を抱えている。これらの課題は、いずれもケア記録の活用を通じた援助の質的向上を妨げるものとして作用するため、可能な限り取り除く必要がある。

よって、本稿の一つ目の目的として、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像を把握する。介護現場では、援助者が援助の過程でケア記録を用いる際に、先述の「課題・困りごと」を抱えている。ただし、ケア記録に関する課題は、それ自体が単一で限定された事象として生じているのではなく、複数の課題が複雑に影響を与えながら生じているものと考えられる。例えば、援助者が「ケア記録に何を書けば良いかわからない」といった課題を抱えている場合には、「どのような情報をケア記録に記述すべきなのか組織内で定

<sup>5)</sup> 本稿では、組織的活用について「利用者ごとに設けられた援助目標の達成および、援助の質的向上を図るために、ケア記録を組織規模で効率的・効果的に用いること」と定義する。

義されていない」「ケア記録へ記述すべき情報が組織内で定義されておらず教えることができない」といった課題が影響を与えていると考える。すなわち、一つの課題であっても、それに付随する課題が複数存在するといえる。このため、援助者によるケア記録の活用を妨げる課題を抽出することで、その傾向が把握でき、これまで不明瞭であった解決すべき課題を明らかにすることができる。

ただし、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題は、事業所ごとに組織構造・組織文化が異なり、生起する状況・原因もそれに影響を受けて異なる。このため、課題が生じる本質的な原因を究明したうえで、改善する必要があると考える。この点を明らかにするのが、本稿の二つ目の目的である。すなわち、課題が生じる原因を明らかにする。これにより、課題を解決するための具体的なアプローチ方法の検討が可能になる。

なお、本研究の対象は、介護現場のなかでも社会的ニーズが高く、在宅生活が困難になった利用者に対し、24時間365日切れ目のない一貫性・継続性のある個別ケアが求められている特別養護老人ホーム(以下、特養)とする。

### 3. 援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像とそれが生じる原因

#### 3.1. 援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像の把握

##### 3.1.1. 分析の方法

##### 3.1.1.1. 分析の対象と方法

日本福祉介護情報学会の2014年度研究・実践企画奨励助成で実施した自記式郵送調査法から得た、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている「課題(N=43)」や「困りごと(N=59)」に関する自由記述回答を対象に分析を行った。また、自由記述回答の分析は、下記の手順のもと、SCAT (Steps for Coding and Theorization) <sup>6</sup>を用いて行った。

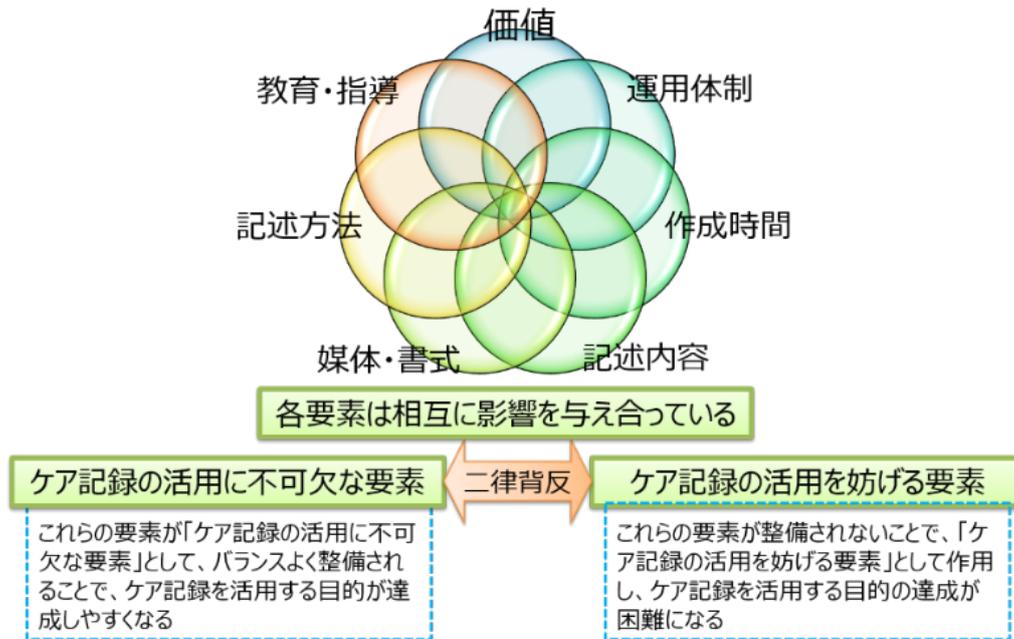
- (1) 「<1>テキスト中の注目すべき語句」には、回答のなかで筆者が着目したテキストを記述し、とりわけ重要と考えられる単語・文節に下線を引いた。
- (2) 「<2>テキスト中の語句の言い換え」には、(1)で抽出したテキストについて、回答者がどのような事柄を伝えようとして記述したのか、出来る限り文意から飛躍しない範囲で筆者の解釈を記述した。
- (3) 「<3>左を説明するようなテキスト外の概念」には、(2)について考え得る原因を記述した。
- (4) 「<4>テーマ・構成概念」には、(1)から(3)の分析・解釈をもとに、望ましい対応策を記述した。なお、<4>で記述した「【】」には、(2)と(3)の分析から考え得るケア記録の中心的な課題を単語で記述した。

##### 3.1.1.2. データのクリーニング方法

データの分析には、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題や困りごとに関する質問の自由記述回答から、適切な回答が得られたものだけを使用し、質問の趣旨とは異なる回答や読解の困難な回答は分析対象から除外した。

<sup>6</sup> SCAT (Steps for Coding and Theorization) とは、自記式郵送調査法で得た自由記述回答などの定性的データから概念を抽出し、それを理論化するために開発された分析方法である(大谷尚 2007: 27-42)(大谷尚 2011: 155-160)。

図1 組織体がケア記録を活用する際に必要な要素



### 3.1.1.3. 倫理的配慮

分析対象としたすべての自由記述回答は、匿名化したうえで分析を行った。

### 3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果

#### 3.1.2.1. SCAT による分析で用いたテキスト

SCAT による分析結果は、表 1 および巻末表 1～巻末表 30 のとおりである。

#### 3.1.2.2. ストーリーラインと理論記述

SCAT による分析から、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像を説明する概念として、「価値」「運用体制」「作成時間」「記述内容」「媒体・書式」「記述方法」「教育・指導」（以下、活用七要素）を抽出した。この活用七要素は、表 1 および巻末表 1～巻末表 30 の「< 3 >左を説明するようなテキスト外の概念」と「< 4 >テーマ・構成概念」から、ケア記録に関する課題は、単一の要素ごとに生じていることは少なく、課題の多くは各要素が独立変数・従属変数として相互に影響を与え合うことで生じている傾向にある。

すなわち、活用七要素の各要素について、組織規模での整備がされていないことで、援助者によるケア記録の活用を妨げる要素として作用する。一方、活用七要素の各要素が組織規模で整備されることにより、ケア記録の組織的活用による援助の質的向上を図る際に、不可欠な要素として機能する（図 1）。

## 3.2. 援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題が生じる原因

### 3.2.1. 調査と分析の方法

#### 3.2.1.1. 調査の対象と方法

調査費用の都合から特養 1 施設を有意抽出法で選出し、そこに所属する介護職の総責任者に対して、半構造化面接を 2018 年 10 月 15 日に行った。また、半構造化面接では、活用七要素の要素ごとに生じている課題やその原因を調査対象者がどのように認識しているの

表1 ケア記録を活用するなかで援助者が抱えている課題

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
1	記入漏れがある。	記入漏れがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
2	情報をまとめるに難しい(調べづらい)。データ化しても分析までしっかりできない。	情報をまとめるに難しい(調べづらい)	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	【媒体・書式】 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。	—
3	用語の整理・統一。	用語の整理・統一	援助者ごとにケア記録へ記述する単語・用語・文章表現が異なる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関する明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
4	ケア記録の記述を一人で作成するため、必要な情報の記入が漏れることがある。	ケア記録の記述を一人で作成するため、必要な情報の記入が漏れることがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—

かを明らかにするため、要素ごとに下記の質問を行った。

- (1) 価値：「ケア記録の活用が利用者支援の質的向上に有益だと思うか」
- (2) 運用体制：「ケア記録に関する運用・管理の体制（記録委員会など）を設けているか」
- (3) 作成時間：「ケア記録を勤務時間内に作成し終えているか」
- (4) 記述内容：「ケア記録に記述すべき情報をルール化しているか」
- (5) 媒体・書式：「ケア記録の書式について困っていることはあるか」
- (6) 記述方法：「ケア記録の書き方をマニュアル等でルール化しているか」
- (7) 教育・指導：「ケア記録に関する教育・指導の機会を設けているか」

### 3.2.1.2. 分析方法

半構造化面接で得た回答は、自由記述回答の分析時に用いた SCAT で分析を行う。具体的には、下記の手順で分析を行った。

- (1) 「< 1 >テキスト中の注目すべき語句」には、回答のなかで筆者が着目したテキストを記述し、とりわけ重要と考えられる単語・文節を太字にし、下線を引いた。
- (2) 「< 2 >テキスト中の語句の言い換え」には、(1) で抽出したテキストについて、回答者がどのような事柄を伝えようとしていたのか、文意から飛躍しない範囲で筆者の解釈を記述した。
- (3) 「< 3 >左を説明するようなテキスト外の内容」には、(2) について考え得る原因を記述した。
- (4) 「< 4 >テーマ・構成概念」には、(1) から (3) の分析・解釈をもとに、望ましい対応策を記述した。なお、< 4 >で記述した「【】」には、(2) と (3) の分析から考え得るケア記録の中心的な課題を単語で記述した。

### 3.2.1.3. 倫理的配慮

半構造化面接では、面接中の会話を IC レコーダーへ録音し、外部委託により文章化したものを分析するため、これらの点を調査対象者へ事前に説明し、承諾を得たうえで面接を実施した。

また、文章化した半構造化面接の内容を SCAT で分析する際には、すべての文章を匿名化したうえで分析を行った。

## 3.2.2. 半構造化面接の調査結果

### 3.2.2.1. SCAT による分析で用いたテキスト

半構造化面接による分析結果は、巻末表 31～巻末表 38 のとおりである。

### 3.2.2.2. ケア記録の書式に関する回答のストーリーラインと理論記述

#### (1) 援助者の認識不足による記述漏れ

利用者の状態など何らかの事実のみがケア記録へ記述され、それに対する対応と結果の記述漏れが生じている。この原因として、ケア記録の教育・指導を通じて「事実・対応・結果」という一連の経過を辿った記述の必要性を援助者が認識しておらず、そのような記述が習慣化されていない可能性が考えられる。

よって、教育・指導を通じた「事実・対応・結果」という一連の経過を辿った記述の重要性や、それを補助する書式の検討、書式の扱い方に関する教育・指導の方法について検討する必要があると考えられる。

## **(2) 情報の混在による記述漏れ**

利用者や業務に関わる情報が、それぞれ整理されずに一冊のノートへ記述・蓄積されるため、混在する情報のなかから経過観察を要する情報を一つずつ拾う手間が生じ、そこで拾い損ねた情報が記述漏れに繋がっている。

よって、援助者間で交わされる利用者や業務に関わる情報などが整理しやすく、混在を防ぐ書式について検討する必要があると考えられる。

## **(3) 利用者への対応が優先されることによる記述漏れ**

援助者が排泄介助や入浴介助など何らかの介助を利用者へ直接行っているときは、それを行っている最中にケア記録へ記述することは困難である。また、ケア記録を書き始めようとしたときに、ナースコールなどで利用者から呼ばれ、すぐに記述できない場合もある。これにより、メモを取る物理的な時間がなく、援助者は自身の記憶に頼らざるを得ない状況になり、援助者の記憶から漏れた情報が記述漏れに繋がっている。

このため、ケア記録へ記述する情報の多くは、それを記述する時間的な余裕があっても、援助者の記憶に頼らざるを得ないことから、すべての記述漏れを防ぐことは困難であるが、ケア記録へ簡易的に記述できる媒体(携帯端末など)・書式(援助に必要な情報を負担なく迅速に記述できる書式など)を検討し、極力記述漏れを防ぐ必要があると考えられる。

## **(4) 援助の体制による記述漏れ**

多床型特養は、複数名の介護職が一人の利用者へ対応する機会が多く、食事・排泄・入浴・コミュニケーションなどの場面ごとに対応する介護職が異なりやすく、そこで得た情報が一人の介護職に集中しにくく、分散しやすい状況になる。このため、報告や記述の漏れが無いか利用者に関わる情報を管理する職員を必要とするが、その体制が設けられていない。これにより、ケア記録への記述漏れが生じやすくなっていると考えられる。

よって、一日ごとに情報の収集・集約・整理を担当する職員設置を検討する必要があると考えられる。

## **(5) 文章がわかりにくい**

ケア記録の書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず、その読み手の読解に困難を強いる場合がある。これは、ケア記録の運用体制が整備・機能されていないことで、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法(用語・単語・文章表現)が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。

よって、ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制を設け、その体制のもとで文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための方法や、その教育・指導の方法について検討する必要があると考える。

### **3.2.2.3. ケア記録の作成時間に関する回答のストーリーラインと理論記述**

パソコンへのタイピングなどの入力作業に不慣れな援助者が、ケア記録の作成に時間を

要し、勤務時間内に完了できない場合がある。これは、パソコンの操作に慣れていない職員でも、短時間で容易に入力できる書式が採用されていないことで生じているものと考えられるため、この点について検討する必要性が考えられる。

#### **3.2.2.4. ケア記録へ記述する情報のルール化に関する回答のストーリーラインと理論記述**

ケア記録へ記述すべき情報をルール化するための有効な方法を見出せず、そのルール化が図れていない状況にある。この原因として、ケア記録へ記述すべき情報のルール化を図るきっかけや必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。

このため、援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法を検討するとともに、それを実行するための効率的・効果的な運用体制についても検討する必要があると考えられる。

#### **3.2.2.5. ケア記録の書き方のルール化に関する回答のストーリーラインと理論記述**

先述したケア記録へ記述する情報のルール化と同様に、ケア記録の書き方をルール化するための有効な方法を見出せず、そのルール化が図れていない状況にある。この原因として、ケア記録の書き方をルール化するきっかけや必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。

このため、援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法やそれを教育・指導する方法、それを実行するための効率的・効果的な運用体制について検討する必要があると考えられる。

#### **3.2.2.6. ケア記録の教育・指導に関する回答のストーリーラインと理論記述**

ケア記録について教育・指導するための有効な方法を見出せず、それを実施するための体制が設けられていない状況にある。この原因として、ケア記録の価値やケア記録に記述すべき情報、ケア記録の書き方といった事柄について組織規模で定義・標準化されず、教育・指導を行う際の明確な基準が設けられてこなかったことに起因すると考えられる。

よって、ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果や援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法、援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法、これらの点を教育・指導する方法、ケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制について検討する必要があると考えられる。

#### **3.2.2.7. ケア記録の運用・管理の体制に関する回答のストーリーラインと理論記述**

ケア記録を運用・管理するための有効な方法を見出せず、体制が設けられていない状況にある。この原因として、運用・管理の体制を設けるきっかけや必要性が生じなかったものに起因すると考えられる。

よって、ケア記録を効率的・効果的に運用・管理できる体制を検討する必要があると考えられる。

#### **3.2.2.8. ケア記録の有用性に関する回答のストーリーラインと理論記述**

交代勤務のなかで利用者に援助を行うことから、情報がなければ利用者の状態把握は不可能であり、ケア記録がなければ情報を援助者間で共有することも不可能である。すなわち、ケア記録のない状況下で援助を行うこと自体が不可能である。

このため、援助における情報とケア記録の重要性に対する援助者からの理解を獲得する

ための方法について、検討する必要があると考えられる。

### 3.2.2.9. 半構造化面接の分析結果の総括

半構造化面接により、ケア記録の活用七要素である「価値」「運用体制」「作成時間」「記述内容」「媒体・書式」「記述方法」「教育・指導」において、援助者が個別に抱えている課題とそれが生じる原因を明らかにした。これにより、課題の多くは、ケア記録へ記述すべき情報の標準化、ケア記録の書き方に関する標準化、ケア記録に用いる媒体や書式の整備、ケア記録の教育・指導の方法、ケア記録を運用・管理するための方法など、利用者の援助にケア記録を用いるための仕組みが整備されていないことで生じていることが明らかになった。すなわち、活用七要素を中核としたうえで、ケア記録を援助に用いるための仕組みを設けなければ、適切な援助を行うことは困難であるといえる。

## 4. 考察

### 4.1. 活用七要素の解釈

ケア記録を活用するなかで援助者が抱えている課題の全体像とその原因を調査・分析したことで、活用七要素を基盤としたケア記録の組織的活用を図る必要性が示唆された。この点において、東京都福祉保健局（2010）の「社会福祉施設における情報管理ガイドライン（以下、ガイドライン）」では、情報の管理・活用という観点からケア記録の活用について、「社会福祉施設において情報（記録）管理に関する取組を進めていくには、単に書類の様式を整備したり、職員に対して記入方法を研修指導したりするだけでは十分とは言えず、情報（記録）の作成／共有／活用／保管といった『組織的な情報管理・情報共有・情報活用のための仕組み』という観点から捉えなおす必要がある」と言及し、ケア記録の組織的活用の必要性を指摘している。

なお、このガイドラインは、ケア記録の組織的活用について、「作成・共有・活用・保管」という四つの視点で要点・考え方・方策を示した先行研究である。ほかにも、ケア記録の組織的活用の取組事例に、小林武生（2004）（2006）による報告例はあるが、体系的に整理したものはガイドラインのみである。

ただし、ガイドラインが提示している内容は、援助者がケア記録を活用するなかで実際に抱えている課題の解決策ではなく、ケア記録が用いられる「作成・共有・活用・保管」という場面に着目し、場面ごとの適切なケア記録の扱い方である。一方、援助者がケア記録について抱えている課題は、個々に具体的で、その原因は有効な解決策がないことに起因する（表1および巻末表1～巻末表30）。

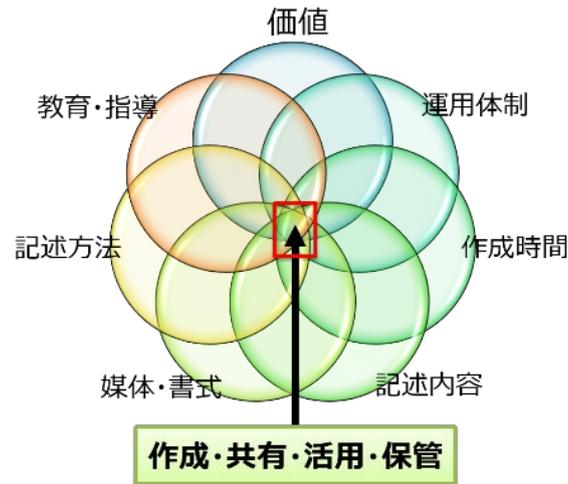
このため、活用七要素の「価値」「運用体制」「記述内容」「作成時間」「媒体・書式」「記述方法」「教育・指導」に対する解決策がなければ、ガイドラインの示す「作成・共有・活用・保管」という視点を活かすことは困難と考える（図2）。よって、次節では、活用七要素の解決策について必要と考えられる視点を検討する。

### 4.2. 価値

活用七要素における価値は「4. SCATによる自由記述回答の分析結果」より、「援助者間で共有すべきケア記録の目的・効果」という定義が考えられる。

ケア記録を用いる際に、「なぜケア記録を作成しなければならないのか」「何のためにケア記録を作成しているのか」といった理由・目的が、援助者間で共有されていなければ、漫然

図2 活用七要素と「作成・活用・共有・保管」の関係



とした状態のなかで、援助者はケア記録を作成することになる。すなわち、明確な目的意識がないなかで、ケア記録を作成する援助者にとっては、「何を書けばよいのかわからないが、とりあえず書けと言われていたから作成している」といった状態に陥りやすく、ケア記録を作成する行為自体を嫌厭される危険性がある。ケア記録の効果においても同様に、それをを用いることで期待できる効果が援助者間で理解・共有されていなければ、ケア記録を用いる目的意識が不明瞭となる。

よって、ケア記録の目的・効果を援助者間で共有することは、援助の質的向上にケア記録を用いる際の前提条件であり、それに対する援助者の動機づけを図るという観点からも、重要な取り組みと考えられる。

なお、ケア記録の目的について、北舘（2017：8）は先行研究を総括したうえで、1) 援助の備忘録、2) 援助に関わる法的な証拠資料、3) 同職種・他職種・他機関との連携、4) 一貫性・継続性のある援助の展開、5) 援助内容の評価、6) 利用者の人物像・課題・要望の把握、7) ケア記録の指導を介した援助者の専門性の向上、8) 援助に対する利用者やその家族への理解促進、9) 援助に関する組織のノウハウの向上、10) 福祉サービスに関する調査・研究を挙げている（佐藤豊道 1998：9-13）（岩間文雄 2006：25-7）（副田あけみ・小嶋章吾 2006：4-5）（Jill Doner Kagle 1996=2006：2-7）。

ただし、この総括は、個々の目的について詳述されておらず、類似した目的もあるため、改めて再考すると下記の内容が考えられる。

(1) 備忘録

援助に必要となる基本的な情報を忘れないための備忘録として用いることを目的とする。

(2) 同職種・他職種・他機関との連携・協働

援助に関わる職種・機関の役割を明確にし、その役割を果たすために必要な利用者に関わる情報やより良い援助に向けた気づき・ノウハウなどの情報共有を目的とする。

(3) 援助の評価

科学的根拠に基づく援助やケアプランの立案・修正に必要な情報の蓄積・分析に用いることを目的とする。利用者の変化やそれに対する援助者の気づきを継続的にケア記録へ記述し、それをケアプランと照合することで、ケアプランの修正の是非が判断でき

るようになる。また、「一貫性・継続性のある援助が行えているか」「援助の内容が決定するまでの過程が明確であるか」「要望・苦情などの聞き取りやそれを解決するまでの過程が明確であるか」といった視点でケア記録へ記述することで、今後の援助に対して、より適切な判断が可能になり、ひいては情報開示をする際にも重要な根拠になり得る。

#### (4) 情報開示

ケア記録の開示を援助の一環として捉え、利用者やその家族と援助に対する情報共有・理解促進・信頼関係の構築を目的とする。

#### (5) 実績・証明・証拠・説明責任

援助の実績・適正性・妥当性を証明・説明するための法的な証拠資料として用いることを目的とする。

#### (6) ノウハウの共有・構築

特定の事象に関する情報を意図的に記述・蓄積・集計・分析し、より適切な援助へ繋げることを目的とする。例えば、利用者の行動・体調や事故が生じやすい状況といった傾向を把握することが可能になり、より個々の状況や状態に適した援助が期待できる。

#### (7) 援助者の資質向上

ケア記録の閲覧・教育・指導を介した援助者の資質向上を目的とする。援助者間でケア記録を相互閲覧することで、利用者の「どのような点に着目したのか」「なぜそこに着目したのか」「どのような対応を行ったのか」「どのような結果・変化が生じたのか」「利用者の変化をどのように捉えたのか」といった、ケアマネジメントの一連の流れやその過程に対する記述の仕方、利用者と関わる際の視点・観察眼を学ぶことができる。

#### (8) 一貫性・継続性のある援助およびその質的向上

上記の目的(1)～(7)の取り組みを通じて、一貫性・継続性のある援助を行い、ひいてはその質的向上を目的とする。一貫性・継続性のある援助を行うためには、上記の目的(1)～(7)のうちどれか一つでも欠けてしまえば、それは困難となり、援助の質的向上を図ることも難しくなる。

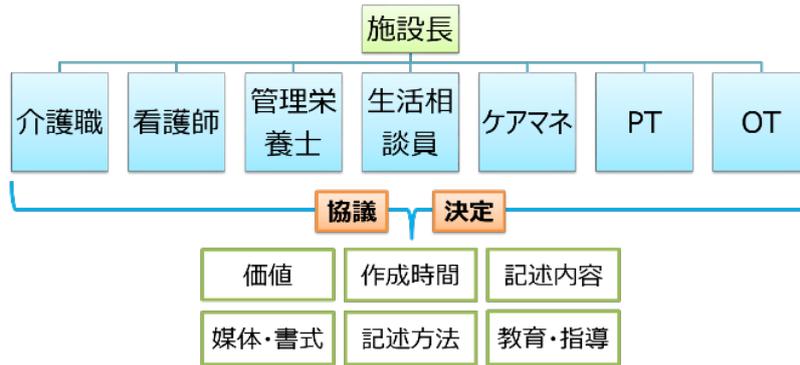
### 4.3. 運用体制

活用七要素における運用体制は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「ケア記録の組織的な運用・管理・活用に必要な規則(記述内容・記述方法・媒体と書式の使い方・作成時間・教育や指導の方法)を協議・決定するための体制・仕組み」という定義が考えられる。

組織としてケア記録を用いるには、「何をケア記録に残さなければならないのか」「ケア記録へどのように記述すべきなのか」「どのように教育・指導を行うべきなのか」といった事柄について、明確な決まりごとがなければ、援助者個人の裁量・判断でケア記録へ記述する情報が取捨選択され、書き方に統一性がなくなる。これにより、「援助に必要な情報が記述されない」「記述された情報が理解できない」「ケア記録へ記述された内容の解釈に齟齬が生じる」といった問題が生じ得る。

このため、委員会などの形式で、ケア記録の扱い方について組織全体で協議・決定するための体制を設けることが望ましく、施設長を最高意思決定者としたうえで、介護職・看護職・管理栄養士・生活相談員・ケアマネなどの専門職の責任者で組成することが必要と考える(図3)。

図3 ケア記録の運用体制の一例



#### 4.4. 記述内容

活用七要素における記述内容は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「一貫性・継続性のある援助を行うために、援助者間で連携・協働を図る際に相互に必要なとする情報」という定義が考えられる。

介護現場では、援助者がケアプランをもとに連携・協働するケアマネジメントを基本とする。このため、ケア記録に記述される情報の多くは、ケアプランで掲げた援助目標の達成に向けて、援助者が利用者に行った援助やそこで得た利用者への気づき、利用者の体調・気分の変化といった経過である。すなわち、ケア記録には、利用者に関わる特定の「事実」へ援助者が「対応」したことで生じる「結果もしくは変化」、それに対する援助者の「考察」が記述される。この「事実・対応・結果・変化・考察」の視点からケア記録に記述される情報を考察すると下記のように考えられる。

##### (1) 事実

「利用者がどのような状態だったのか」「利用者からどのような訴えがあったのか」など他者へ伝えなければならない事実のことで、「ケア記録を書く」という行為のきっかけとなった出来事・着眼点が記述される。

##### (2) 対応

援助者がケア記録を書くきっかけとなった出来事・着眼点に対して、援助者がどのように対応・対処したのかが記述される。

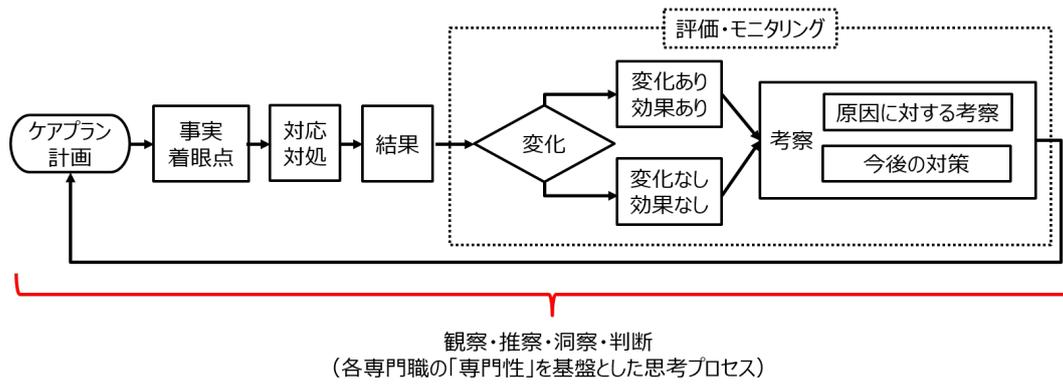
##### (3) 結果・変化

援助者がケア記録を書くきっかけとなった出来事・着眼点、援助者が対応・対処した結果として、利用者がどのような状態になったのかが記述される。例えば、「特定の利用者の転倒が頻発している」「特定の利用者がレクリエーションに積極的だった」など援助者がケア記録を書くきっかけとなった出来事・着眼点に対して経過観察を要することがある。これらの事象について、先述の「対応」と「結果」を一定期間記述し、情報を収集・蓄積し続け、評価を行うことで何らかの変化・傾向が見える可能性がある。

##### (4) 考察

特定の事象について経過観察を行い、「対応」と「結果・変化」を一定期間記述し、利用者に何らかの変化・傾向があった場合や無かった場合に、そこには何らかの原因が存在する。ここでは「どのような原因が考えられるのか」「今後どのような対応・対処・対策が求められるのか」といった原因に対する考察が記述される。

図4 ケア記録の記述内容



以上のことから、日々の援助の過程では「事実」「対応」「結果・変化」までが記述され、ケアマネジメントにおけるモニタリング期に「考察」が記述される。これらを整理すると、ケア記録は図4のような経過を辿って情報が記述されるとともに、ケア記録の組織的活用による援助の質的向上を図るには、図4の経過を辿る形でケア記録を記述する必要があると考えられる。言い換えれば、この経過を辿るなかで、いずれの過程でも「観察・推察・洞察・判断」といった各専門職の専門性を基盤とした思考が言語化・可視化されたものがケア記録へ記述されると考えられる。

一方で、ケア記録に記述される情報は、援助の質的向上に有用・有益な内容が記述されることが望ましいが、各専門職の専門性を基盤とした思考がケア記録へ記述されることを鑑みると、そこに記述される内容の質は、援助者の専門性に影響される。

すなわち、援助者個人が実務経験を積み上げるなかで習得・修練した専門的な知識・技術の量・熟達度に影響を受けることから、一般に、利用者の異変・変化に対して実務経験の短い援助者では得ることが難しい気づき・洞察を、実務経験の長い援助者では得られることが多い<sup>7)</sup>。

よって、「事実・対応・結果・変化・考察」というケア記録を記述する際の枠組みを用いて、より援助の質的向上に有用・有益な情報を援助者に記述してもらうには、知識・技術の土台を組織規模で底上げする必要もある。このため、援助者がより多くの気づき・洞察を得られるように、日々の援助のなかで援助者が注視すべき利用者への観察眼などを、援助者へ提供することも必要と考える。

#### 4.5. 記述方法

活用七要素における記述方法は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「援助者間で相互に必要な情報を伝達し合う際に、ケア記録の書き手がその読み手に誤りなく、正確に伝えるための文章作成や情報伝達に関する規則」という定義が考えられる。

ケア記録は援助者ひいては利用者やその家族が閲覧するため、その読み手となる援助者に誤った解釈を与える記述から不適切な援助を行わせたり、ケア記録を閲覧した利用者やその家族に誤解・不快感を与えるような記述を防ぐ必要がある。すなわち、ケア記録の書き手には、その読み手に極力誤読させない文章の作成が求められる。

<sup>7)</sup> 実務経験の長い援助者は、それが短い援助者よりも専門的な知識・技術の量・熟達度が高いゆえに、物事の解釈に偏りが生じる可能性がある。このため、実務経験の長い援助者とは異なった気づき・洞察を、実務経験の短い援助者が得ることもある。

ただし、この文章作成は、援助者個人の能力に依存することから、作成する文章の文体・単語・用語に差異が生じる。また、先述した「事実・対応・結果・変化・考察」を援助者がケア記録へ記述する際に、そこへ記述すべき情報が抽象的に記述されている場合や、援助者の裁量で記述されていない場合、記述すべきであることを知らず記述されていない場合がある。このため、ケア記録へ記述する際の書き方は、組織規模で標準化する必要がある。

#### 4.6. 媒体・書式

活用七要素における媒体・書式は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「紙・電子といった媒体の書式を、伝達・共有・蓄積・分析・保管・再利用など援助者間で情報を用いる用途に応じて最適化すること」という定義が考えられる。

介護現場では、援助者がケアプランをもとに連携・協働するケアマネジメントを基本とする。このため、ケア記録には「事実・対応・結果・変化・考察」といった情報が途切れることなく経過を辿りながら、交代勤務のなかで介護職・看護師・管理栄養士などの専門職によって記述される。よって、ケア記録に記述される情報は、一つの媒体で集中的に管理・保管され、その媒体に用いる書式も統一されていることが望ましい。

複数の媒体を用いて、情報が一か所に集約されない状況下では、「必要な情報を迅速に引き出すことができない」「媒体間での転記を要する場合に転記漏れが生じる」「不要な時間を転記に費やされる」といった問題が生じやすくなる。一方、媒体に用いる書式が統一されていないことで、「援助に必要な情報が記述されていない」といった問題も生じやすくなる。いずれも、媒体・書式が組織規模で統一・管理されていないことにより、援助者が必要とする情報を迅速に引き出すことを阻害する。このことから、円滑に援助を行うことも困難になり、利用者へ不利益を与える危険が生じ得る。

#### 4.7. 作成時間

活用七要素における作成時間は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「援助者が勤務時間内にケア記録を作成し終わることができるように、組織がケア記録の作成に要する時間を見積り、それに必要な時間を援助者に提供すること」という定義が考えられる。

援助者は利用者に対応する傍らでケア記録を作成するため、介助時間の長い利用者が多く、直接その介助にあたる人員が少ないほど、勤務時間のなかでケア記録の記述に割ける時間は短くなる。

すなわち、援助者がケア記録の記述に割ける時間が少ないほど、落ち着いた環境で行った援助を振り返りながら記述する心理的余裕はなくなる。さらに、記述に割ける時間が少ないなかで、勤務時間内に記述し終えなければならないため、殴り書きのような文章になりやすい。これは、誤字・脱字が生じる原因や文意の読解が困難な文章の原因になり得る。また、急いでケア記録へ記述することから、記述漏れも生じやすくなる。

よって、援助の質的向上に役立つ情報をケア記録へ記述するには、援助者がケア記録の作成に要する平均的な時間を調べたうえで、作成に必要な時間を組織から提供する必要がある。その時間を捻出することが難しい場合には、援助や事業運営への直接的な悪影響が及びにくい業務を効率化するなどの対策が求められると考える。

一方、援助者がケア記録を作成する時間には、人件費などのコストを要する。このため、援助には様々な費用を要するが、その一要素であるケア記録の作成に要した費用よりも大

きい成果として、個々の利用者に行う援助の質が向上していなければならない。すなわち、媒体による情報の一元的な管理と書式による記述内容の統一化を行い、ケア記録に記述される情報の質を確保しつつ、ケア記録の作成に要する労力と時間を可能な限り縮小するといった工夫が求められると考えられる。

#### 4.8. 教育・指導

活用七要素における教育・指導は「3.1.2. SCAT による自由記述回答の分析結果」より、「ケア記録の組織的な運用・管理・活用に必要な規則（記述内容・記述方法・媒体と書式の使い方・作成時間・教育や指導の方法）について教示・研修するとともに、日々の実践のなかでケア記録の適切な使い方を随時スーパーバイズするための体制・仕組み」という定義が考えられる。

ケア記録をはじめ他者へ何らかの教育・指導を行う際には、所属組織の一員として最低限習得しなければならない知識・技術を、体系的に整理したマニュアルやカリキュラムがなければ教えることは難しい。また、現場での実務で何らかの失敗・誤りが生じた際に、それを正す場面で指導の拠り所となるマニュアルやカリキュラムがなければ、指導者ごとに指導内容が異なりやすくなる。

この点においては、ケア記録も同様で、記述内容が曖昧であれば、ケア記録に記述すべき情報を一般論として教えることは可能でも、組織のなかで必要とされる情報を教えることはできない。また、曖昧であることにより、指導者ごとに教える内容が異なり、不適切な内容を教えてしまう危険性もある。記述方法も曖昧であれば、ケア記録を記述する際に用いる文体・単語・用語などを的確に教えることはできない。媒体・書式においても、その扱い方を教えることはできない。

よって、ケア記録の教育・指導について検討する場合には、その運用体制のなかで、ケア記録の価値・記述内容・記述方法・媒体と書式・作成時間について協議し、決定された事柄をマニュアルに落とし込み、それに準じたカリキュラムを作成することが必要と考える。

#### 5. 今後の課題

本稿では、ケア記録の活用による援助の質的向上に必要な方法・技術を開発・体系化するための基礎研究として、援助者がケア記録を用いるなかで抱えている課題の全体像とその原因を明らかにした。これにより、活用七要素を基盤としたケア記録の組織的活用を図る必要性が示唆された。

ただし、そのためには、組織文化の異なる介護現場で効率的・効果的に展開できる実用モデルを開発する必要がある。実用モデルの開発には、ケア記録を効率的・効果的に活用し、援助の質的向上に成果を挙げている特養を先進的取組事例として分析する必要もあるため、この点は今後の課題である。また、実用モデルの開発後は、介護現場での実践に耐え得るものであるか検証する必要があるとともに、ケア記録の組織的活用による援助の質への影響・効果も検証する必要がある。

一方、本研究は特養のケア記録を対象にしているが、それに類する記録は特養に限らず、他の高齢者福祉領域・障害福祉領域・児童福祉領域などでも実務を担う援助者が用いている。すなわち、本研究の成果は他の社会福祉領域で応用できる可能性があり、それについても今後の課題として検討する必要がある。

## 謝辞

本研究は、日本福祉介護情報学会の「2017年度研究・実践企画奨励助成」により実施したものである。

## 〔文献〕

1. 岩間文雄、2006、『ソーシャルワーク記録の研究と実際』相川書房
2. Kagle, Jill Doner, 1991, Social Work Records, Second Edition, Waveland press Inc (=2006, 久保紘章・佐藤豊道訳『ソーシャルワーク記録』相川書房)
3. 北舘一弥・村井祐一、2017、「特別養護老人ホームにおける利用者支援向上のためのケアワーク記録の活用に影響を与えている要因に関する研究」『福祉情報研究』13:6-21
4. 小林武生、2004、「老人福祉施設における情報化プロジェクトに関する実践報告」『福祉情報研究』1:68-78
5. 小林武生 2006、「社会福祉施設における情報化の一考察—特別養護老人ホームにおける情報化過程を事例に一」『福祉情報研究』3:3-15
6. 村井祐一、2005、「利用者情報の活用と保護——実践のなかでの個人情報の活用と保護」『社会福祉研究』94:2-12
7. 大谷尚、2007、「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要』54(2):27-44
8. 大谷尚、2011、「4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『感性工学』10(3):155-160
9. 佐藤豊道、1998、『介護福祉のための記録 15 講』中央法規出版
10. 副田あけみ・小嶋章吾、2006、『ソーシャルワーク記録——理論と技法』誠信書房
11. 富川雅美、2017、『よくわかる介護記録の書き方 第5版』メヂカルフレンド
12. 東京都福祉保健局、2010「社会福祉施設における情報管理ガイドライン」  
( [http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kiban/fukushijinzei/teichakuikusei/jigyoshashien/management.files/h21\\_jyohoukanri\\_1.pdf](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kiban/fukushijinzei/teichakuikusei/jigyoshashien/management.files/h21_jyohoukanri_1.pdf)、2018.10.01)
13. 特定非営利活動法人Uビジョン研究所、2007、『特別養護老人ホームにおける介護記録等のシステム化推進事業報告書』特定非営利活動法人Uビジョン研究所
14. 特定非営利活動法人Uビジョン研究所、2007、『ケアの質を高める「記録」ワークブック』、特定非営利活動法人Uビジョン研究所

## 卷末資料①

—SCATによる自由記述回答の分析結果—

巻末表 1 ケア記録に関する課題

番号	テキスト	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
	(回答者から得たデータ)	テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
1	記入漏れがある。	記入漏れがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
2	情報をまとめにくい(調べづらい)。データ化しても分析までしっかりできない。	情報をまとめにくい(調べづらい)	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	<p>【媒体・書式】</p> 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。	—
3	用語の整理・統一。	用語の整理・統一	援助者ごとにケア記録へ記述する単語・用語・文章表現が異なる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
4	ケア記録の記述を一人で作成するため、必要な情報の記入が漏れることがある。	ケア記録の記述を一人で作成するため、必要な情報の記入が漏れることがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—

巻末表 2 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言いかえ	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
5	統一性がない。必要な情報の抜け・不十分なところがある。	統一性がない	援助者ごとにケア記録へ記述する単語・用語・文章表現が異なる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。</p>	—
	必要な情報の抜け・不十分などところがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを 방지、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防止、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防止、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—	
6	記録の種類が多く、確認しにくい。職員の意識低下。	記録の種類が多く、確認しにくい	確認の必要なケア記録の種類が多く短時間で情報を収集できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。また、ケア記録へ記述すべき情報が標準化されておらず、援助者間で共有・伝達する情報が一元的に管理されていない。これにより、作成する帳票が多く、読み手による情報収集を困難にさせ、それに時間を要していると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 支援に必要な情報が一元的に集約・管理され、迅速に情報収集が行え、転記を要せずに作成できるケア記録の書式の検討。</p>	—
	職員の意識低下	ケア記録の活用に対する援助者の意識が低い。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性があり、これらを背景に、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	<p><b>【価値】</b> ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。</p> <p><b>【運用体制】</b> ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用を援助者を動機づけるための仕組みの検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。</p>	—	
7	電子化されているため、書式の変更などが難しく、経過記録のみで課題設定など、記載の方法が変更できない。	電子化されているため、書式の変更などが難しく、経過記録のみで課題設定など、記載の方法が変更できない	支援に必要な情報が記述できない書式である。	書式を自由に改変できないため、支援に必要な情報が記述しにくい。	<p><b>【媒体・書式】</b> 援助者の用途に応じて、支援に必要な情報が記述できる書式に変更可能なケア記録の検討。</p>	—

巻末表 3 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
8	記録が日記のように長く、読みにくい時がある。	記録が日記のように長く、読みにくい時がある	書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず読解が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> ケア記録の書き手が文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。</p>	—
9	記録について勉強不足のため、記録が利用者の行動日記のようになっている。ケアプランに活用する内容やニーズが把握できない。	記録について勉強不足のため、記録が利用者の行動日記のようになっている	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
		ケアプランに活用する内容やニーズが把握できない			<p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
10	記録に同じような内容のものもあり、変化を把握しづらいこともある。時折記録の漏れがある。	記録に同じような内容のものもあり、変化を把握しづらいこともある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
		時折記録の漏れがある				
11	記録の連続性がなかったり、記録に残すポイントや視点がズレていて、形として記録はあっても、内容がイマイチなものが多く、結局直接見に行ったり、職員から話を聞き出す必要がある。	記録の連続性がなかったり、記録に残すポイントや視点がズレていて、形として記録はあっても、内容がイマイチなものが多く、結局直接見に行ったり、職員から話を聞き出す必要がある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—

巻末表 4 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言いかえ	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
12	記録が短く読解しにくいことがある。	記録が短く読解しにくい	書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず読解が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> ケア記録の書き手が文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。</p>	—
13	必要な情報が十分に記載されていない。	必要な情報が十分に記載されていない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
14	職員全員が記入漏れのないようにする。	職員全員が記入漏れのないようにする	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
15	記録物が多く、時間がかかる。 他の職員が記録をしているときは、自分の記録ができない。	記録物が多く、時間がかかる	ケア記録の種類が多いため、作成に時間を要する。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容・ケア記録の媒体や書式が精査されていないため、作成する帳票が多くなり、その作成に時間を要している可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 転記作業を要せずに作成できるケア記録の書式の検討。</p>	—
		他の職員が記録をしているときは、自分の記録ができない。	同じ場所・同じ媒体で複数の援助者がケア記録を作成するため、同じタイミングで記述することができない。	同じ場所・同じ媒体で複数の援助者がケア記録を作成するため、同じタイミングで記述することができない。	<p><b>【媒体・書式】</b> 複数の援助者が場所を問わず、同じタイミングで記述できるケア記録の書式の検討。</p>	—

巻末表 5 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
16	何に対して重点的に書かなければいけないのかわかっていない。 要点がわかりにくい。	何に対して重点的に書かなければいけないのかわかっていない。	ケア記録へ記述すべき情報や記述する方法が標準化されていないため、援助者がケア記録へどのような情報を、どのように記述すればよいか理解できていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
		要点がわかりにくい。	書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず読解が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法(用語・単語・文章表現)が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。	
17	担当者が自発的に利用者の様子を把握するためには使えていない。課題となるのは、ケアに向かう職員の姿勢だと思う。	担当者が自発的に利用者の様子を把握するためには使えていない 課題となるのは、ケアに向かう職員の姿勢だと思う	ケア記録の活用に対する援助者の意識が低い。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が適切に機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性があり、これらを背景に、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	<p>【価値】</p> ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。	—
18	必要な情報が記録にないことが多い。	必要な情報が記録にない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—

巻末表 6 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言いかえ	<3> 左を説明するようなテキスト外 の概念	<4> テーマ・構成概念□(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
19	利用者数が多く、全体の状態を把握することが難しい。	利用者数が多く、全体の状態を把握することが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	【媒体・書式】 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。	—
20	必要な情報がわかりにくい。手書きなので読みにくく、必要な情報を見落としがちになる。	手書きなので読みにくく、必要な情報を見落としがちになる。	手書きによる読みにくさがあり、情報を見落とす場合もある。	援助者がケア記録から情報を取得する際の「読みやすさ（可読性・視認性・判読性）」を考慮した書式ではない可能性がある。	【媒体・書式】 ケア記録の読みやすさ（可読性・視認性・判読性）を考慮した書式の検討	—
21	記録する力(5W1Hで客観的に事実を書く習慣)。P D C A に活用できる記述やケア根拠の明記が不十分である。	P D C A に活用できる記述やケア根拠の明記が不十分である	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
22	ケアプランに沿って記録は記述されているが、食事摂取量が少ない時にその記入がされていないことがある。	食事摂取量が少ない時にその記入がされていないことがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
23	ケアプラン実践の記録がすぐに引き出せない。	ケアプラン実践の記録がすぐに引き出せない	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	【媒体・書式】 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。	—
24	職員の記録のとり方にばらつきがある。	職員の記録のとり方にばらつきがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—

巻末表 7 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
25	援助者の気づきや考察があまり記録されていない。 誤字・脱字がある。	援助者の気づきや考察があまり記録されていない	支援の過程で得た援助者の気づきや考察が記述されることで、より良い援助に繋げることが期待できるが、積極的に記述されていない。	援助者の気づきや考察の重要性が組織規模で共通認識されておらず、気づきを得るための具体的な観察点について教育・指導が行われていない可能性がある。ケア記録の書式も、援助者の気づきや考察を記述しやすく、読みやすいものではない可能性がある。	【 <b>価値</b> 】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【 <b>運用体制</b> 】 ケア記録を活用することで得られる具体的な効果について組織規模での共通認識を得るための体制の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 援助者の気づき・考察の重要性について理解を得るための方法や、気づきを得るための援助者の観察眼を養うための教育・指導の方法の検討。 【 <b>媒体・書式</b> 】 援助者の気づき・考察が記述しやすく、読みやすいケア記録の書式。	—
		誤字・脱字がある	誤字・脱字があり文意・要旨の読解に時間を要する。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、誤字・脱字を予防するための教育・指導の体制や仕組みが組織規模で設けられていない可能性がある。	【 <b>運用体制</b> 】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 誤字・脱字を予防するための教育・指導の方法の検討。 【 <b>媒体・書式</b> 】 誤字・脱字を予防するためのケア記録の書式の検討。	—
26	活用できる職員とできない職員の差がある。	活用できる職員とできない職員の差がある	ケア記録を活用できる援助者と活用できない援助者の間で技量に差が生じている。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が適切に機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないことで、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	【 <b>価値</b> 】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【 <b>運用体制</b> 】 ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用により援助者を動機づけるための仕組みの検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
27	情報の記入量にバラツキがある。	情報の記入量にバラツキがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【 <b>運用体制</b> 】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>記述内容</b> 】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【 <b>媒体・書式</b> 】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできるケア記録の書式の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
28	記録の仕方にもよるが、細かい状態がわかりにくい(入力できる文字数が決まっているため、細かく入力できない)。	記録の仕方にもよるが、細かい状態がわかりにくい(入力できる文字数が決まっているため、細かく入力できない)	電子媒体のケア記録を用いているが、入力できる文字数に制約があり、必要な情報を記述できない。	ケア記録に電子媒体が用いられているが、入力できる文字数に制約があり、支援に必要な情報が入力し切れない。	【 <b>媒体・書式</b> 】 支援に必要な情報を不足なく記述できるケア記録の書式の検討。	—

巻末表 8 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
29	記録忘れがあること。	記録忘れがあること	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
30	記述されていることが、いつも起きていることなのか、特異に起きたことなのかを読み取りにくい。	記述されていることが、いつも起きていることなのか、特異に起きたことなのかを読み取りにくい	「日常的に生じている事象」と「普段とは異なる状況・状態」をケア記録の記述から判別するのが難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の教育・指導の体制が整備されておらず、「日常的に生じている事象」と「普段とは異なる状況・状態」を読み手が読解しにくい状況が生じていると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録の記述方法を教育・指導するために必要な運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 「日常的に生じている事象」と「普段とは異なる状況・状態」など利用者の様子を読み手が読解できる記述方法の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 「日常的に生じている事象」と「普段とは異なる状況・状態」など利用者の様子を読み手が読解できる記述方法を教育・指導する方法の検討。</p>	—
31	記録が多く、100名分をさかのぼるのは難しい。	記録が多く、100名分をさかのぼるのは難しい	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	<p><b>【媒体・書式】</b> 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。</p>	—
32	記録を記入する人とケアプランを立てる人が異なるなかで、ケアプランを立てる人が利用者の情報を把握できていない。把握できるような記入ができていない。把握するために、色々な記録物を見なければならぬ。	記録を記入する人とケアプランを立てる人が異なるなかで、ケアプランを立てる人が利用者の情報を把握できていない 把握できるような記入ができていない 把握するために、色々な記録物を見なければならぬ	ケア記録とケアプランの作成者が異なる状況下で、ケア記録には必要な情報が記述されておらず、ケアプランの作成時には複数のケア記録を確認しなければならない。	ケア記録を効率的・効果的に活用するための運用体制やケアプランの作成・評価に必要な情報の標準化、ケア記録の記述方法（単語・用語・文章表現）に関する教育・指導の内容と体制、情報を一元的に管理できるケア記録の書式が整備されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録を効率的・効果的に活用するうえで、望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 情報を一元的に管理できるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述内容・記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。</p>	— — —
33	記録のなかに記録者の感想や想いが記述してあり、わかりにくい。	記録のなかに記録者の感想や想いが記述してあり、わかりにくい	「客観的事実」と「援助者の気づき・考察」が混在して記述されており読解が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述方法（用語・単語・文章表現）やその教育・指導の方法が組織内で標準化されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述方法を教育・指導する方法の検討。</p>	—

巻末表 9 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
34	記録する人によって、情報が不足することがある。	記録する人によって、情報が不足することがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
35	利用者の生活が見え難い。	利用者の生活が見え難い	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
36	記録の漏れがある。	記録の漏れがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
37	複写の記録が多い。	複写の記録が多い	ケア記録の作成時に転記作業が伴い、時間を要する。	ケア記録へ記述すべき情報が標準化されておらず、ケア記録へ記述される情報も一元的に管理されていないため、転記作業が発生しケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	<p>【媒体・書式】</p> 支援に必要な情報を一元的に集約・管理できる書式の検討。	—
38	過去に行った処置を振り返ることが難しい。	過去に行った処置を振り返ることが難しい	過去に作成したケア記録から支援に必要な情報を迅速に引き出すことができない。	過去にケア記録へ記述した情報を振り返る際に、それを想定した媒体が用いられていないため、迅速に引き出すことが困難な状況にあると考えられる。	<p>【媒体・書式】</p> より短い時間で支援に必要な情報を引き出せるケア記録の書式の検討。	—

巻末表 10 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
39	必要な情報をすぐに引き出せない。	必要な情報をすぐに引き出せない	過去に作成したケア記録から支援に必要な情報を迅速に引き出すことができない。	過去にケア記録へ記述した情報を振り返る際に、それを想定した媒体が用いられていないため、迅速に引き出すことが困難な状況にあると考えられる。	【媒体・書式】 より短い時間で支援に必要な情報を引き出せるケア記録の書式の検討。	—
40	記入漏れがある。 職員間で記入の必要性の話し合いをして行く必要がある。	記入漏れがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
41	職員によっては記録が曖昧である。能力面での差が出てしまう。	職員によっては記録が曖昧である	書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず読解が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【運用体制】 ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。 【記述方法】 ケア記録の書き手が文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。	—
		能力面での差が出てしまう	ケア記録の作成に必要な能力の乏しい援助者がいる。	ケア記録の作成に必要な能力を一定の水準で保つための体制が、組織内で整備されていない（整備されていても効果的に機能していない）可能性がある。	【運用体制】 ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定の水準に保つための運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定の水準に保つための教育・指導方法の検討。	—
42	記録内容の統一化が難しい。	記録内容の統一化が難しい	ケア記録の記述方法を統一したいが、どのように対処すれば良いのかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—

巻末表 11 ケア記録に関する課題（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の概念	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
43	援助者がどのような情報を必要としているのか把握できていないため、記録が取れない。記録の内容が薄く、必要な情報が得られない。	援助者がどのような情報を必要としているのか把握できていないため、記録が取れない  記録の内容が薄く、必要な情報が得られない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—  —

巻末表 12 ケア記録に関する困りごと

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
1	記録に対する認識の違いを、ある程度のレベルまで統一するための指導対策の方針がわからない。	記録に対する認識の違い  ある程度のレベルまで統一するための指導対策の方針がわからない	「ケア記録の作成」という行為について援助者間での認識に齟齬が生じており、それを統一・解消する必要がある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の教育・指導の体制も適切に機能せず、ケア記録を用いる目的やそれを活用することで期待される効果が、援助者間で共通認識されていないと考えられる。	【 <b>価値</b> 】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【 <b>運用体制</b> 】 ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用により援助者を動機づけるための仕組みの検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
2	どこに視点を置き記録すべきかわからない。記録の統一性を教えたいが、指導方法に難儀している。	どこに視点を置き記録すべきかわからない  記録の統一性を教えたいが、指導方法に難儀している	ケア記録へ記述すべき情報や記述する方法が標準化されていないため、教育・指導をする際の判断基準がない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【 <b>運用体制</b> 】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>記述内容</b> 】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【 <b>記述方法</b> 】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 ケア記録の記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
3	介護の内容を正確に記述できているかという問いにやや疑問な点があり、今後の検討課題と思っている。ケアプランの項目別について「出来た」「出来なかった」の選択形式を採用しているが、利用者一人ひとりの状態や変化や介護内容をケアプランに反映させるまでの内容が記載されていないため、今後の検討課題と思っている。	介護の内容を正確に記述できているかという問いにやや疑問な点があり。  ケアプランの項目別について「出来た」「出来なかった」の選択形式を採用しているが、利用者一人ひとりの状態や変化や介護内容をケアプランに反映させるまでの内容が記載されていない。	ケア記録へ支援した内容を適切な文章表現で漏れなく記述できているか不安がある。  ケアプランの評価に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき事柄やその記述方法が組織内で標準化されておらず、それらの判断基準がないため、適切な内容でケア記録に記述できているか不安・疑問が生じていると考えられる。また、ケア記録へ記述すべき事柄や記述方法に関する判断の基準がないため、記述方法に関する教育・指導を困難にさせ、ケア記録へ記述した内容が適切であるか、援助者が不安・疑問を抱えやすい状況にあると考えられる。  支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき事柄が標準化されておらず、ケアプランの評価に必要な情報がケア記録へ記述されていないと考えられる。また、記述すべき事柄が標準化されていないことで、ケア記録の書式もそれに準拠したものではないため、記述漏れ(記述忘れ)が生じやすく、ケアプランの評価に必要な情報が記述されにくい状況にあると考えられる。さらに、ケア記録へ記述すべき事柄や書式が標準化されていないことで、一貫性のある判断基準が提示できないため、援助者にケアプランの評価に必要な情報の記述を求めるうえで、それに関わる教育・指導も困難にさせていると考えられる。	【 <b>運用体制</b> 】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>記述内容</b> 】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【 <b>記述方法</b> 】 援助者がケア記録へ記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
4	ケアプランが見やすいように、ケアプランが行っているかを組み込んだものがよい。	ケアプランが行っているかを組み込んだものがよい	ケアプランの実施状況を見比べながら、ケア記録を作成することができない。	ケアプランとその実施状況を見比べながら作成することのできない書式のケア記録が用いられている。	【 <b>媒体・書式</b> 】 ケアプランの実施状況を見比べながら作成できるケア記録の検討。	—

巻末表 13 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
5	記述方法について統一しなければならぬ(職員も変わるのバラバラになってくる)。	記述方法について統一しなければならぬ	援助者ごとにケア記録へ記述する単語・用語・文章表現が異なる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる判断の基準がなく、記述方法の教育・指導も困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
6	誰が見てもわかりやすく理解できるよう記録していないといけなく感じている。	誰が見てもわかりやすく理解できるよう記録していないといけなく	ケア記録へ記述された内容を読解できないことがある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに文章表現が異なると考えられる。また、組織内でケア記録の記述方法が標準化されていないことで、それに関する判断の基準がないため、記述方法の教育・指導も困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
7	栄養経過記録をあまり入力できないことが課題。共有したい情報を入力するフォーマットがない。	栄養経過記録をあまり入力できない	電子媒体のケア記録を用いているが、入力できる文字数に制約があり、必要な情報量を記述できない。	ケア記録に電子媒体が用いられているが、入力できる文字数に制約があり、支援に必要な情報が入力し切れない。	<p>【媒体・書式】</p> 支援に必要な情報を不足なく記述できるケア記録の書式の検討。	—
		共有したい情報を入力するフォーマットがない	情報が一元管理されておらず、他職種間で共有したい情報を同一の書式に記述することができない。	ケア記録に電子媒体が用いられているが、他職種間で共有すべき情報を同一の書式で一元的に管理できない。	<p>【媒体・書式】</p> 支援に必要な情報を一元的に集約・管理できる書式の検討	—
8	どのようにケア記録を書けばよいかわからない。ケア記録の指導方法がわからない。	どのようにケア記録を書けばよいかわからない	ケア記録へ記述すべき情報や記述する方法が標準化されていないため、援助者がケア記録へどのような情報を、どのように記述すればよいか理解できていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
		ケア記録の指導方法がわからない			<p>【記述内容】</p> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。	—
					<p>【記述方法】</p> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。	
					<p>【媒体・書式】</p> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	
					<p>【教育・指導】</p> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	

巻末表 14 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
9	介助にあたりながら記録をしなければならぬため、リアルタイムに記録ができない。このため、忘れてしまったたり、抜け・不足が生じる。また、記録に要する時間が長くなってしまふ。	介助にあたりながら記録をしなければならぬため、リアルタイムに記録ができない 忘れてしまったたり、抜け・不足が生じる	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、支援の過程で得た情報をその場でケア記録へ記述することができない。	ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、支援の過程で得た情報をその場でケア記録へ記述することができない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。これらのことから、援助者がケア記録へ記述しようとしていた事柄を忘れてしまい、それを回顧するのに時間を要し、結果としてケア記録の作成に費やす時間が長くなってしまふと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
		記録に要する時間が長くなる				—
		記録に要する時間が長くなる				—
10	充実した記録を残すための時間の確保。職員の教育方法が難しい。	充実した記録を残すための時間の確保	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
		職員の教育方法が難しい				ケア記録を用いるうえでどのような教育すれば良いか具体的な方法がわからない。
11	利用者の急変時などのときに、記録の持ち出しがすぐにできない(印刷が必要)。	利用者の急変時などのときに、記録の持ち出しがすぐにできない	急変時などでケア記録を施設外へ持ち出す必要がある際に、ケア記録が電子化されていると印刷する手間が生じ、すぐに持ち出せない。	急変時などで施設外にケア記録を持ち出す必要がある際に、それを迅速に印刷できる機能がケア記録に実装されていない。	【媒体・書式】 急変時などで施設外にケア記録を持ち出す必要がある際に、それを迅速に印刷できる書式・機能の検討。	—

巻末表 15 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
12	ケアを行う根拠やケアプランの必要性の理解ができていない。	ケアを行う根拠やケアプランの必要性の理解ができていない	ケア記録を記述する前提として、ケアプランに即した根拠のある支援の必要性について、援助者間で共通認識が得られていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、支援の質的向上にケア記録を活用するために必要な教育・指導の体制やその内容が標準化されていないと考えられる。このため、ケア記録を活用する際の前提条件であるケアプランに即した根拠のある支援の必要性について、援助者間での共通認識が得られていない可能性がある。	【価値】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【運用体制】 ケアプランに即した根拠のある支援の必要性について、援助者からの共通認識を得るための仕組みの検討。 【教育・指導】 ケアプランに即した根拠のある支援の必要性について、一貫性・継続性のある教育・指導を行う方法の検討。	—
13	ケア記録は大事なことを認識し、記録しているが、記録作業に集中することなどにより、利用者への見守りや声掛けが不十分になる時間や職種(介護職)があると感じている。また、記録は実務経験やスキルアップすることで向上してくると思う。	記録作業に集中することなどにより、利用者への見守りや声掛けが不十分になる時間や職種(介護職)がある	援助者が集中してケア記録を作成しようとすると、利用者への対応(介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応)が不十分になる場合がある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応(介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応)が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
14	ケア記録を行う時間・内容の指導・助言を行っているが、現場職員の記録に要している時間が定時よりも超過している職員が見受けられる。負担が心配である。	現場職員の記録に要している時間が定時よりも超過している職員が見受けられる	勤務時間内にケア記録を作成する時間がなく、ケア記録の作成を勤務時間内に終えることができない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応(介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応)が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
15	毎日「散歩する」など同じ記述ばかりで、本人の状況や状態がわからない。	毎日「散歩する」など同じ記述ばかりで、本人の状況や状態がわからない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—

巻末表 16 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
16	ケア記録に関する書籍を購入・閲覧させているが、特に介護職は現場の実務に時間をとられ、記録がおろそかになりがち。記録も不十分である。内容も核心をついていないことも多い。「書くことが苦手」と公言する職員もいる。	介護職は現場の実務に時間をとられ、記録がおろそかになりがち	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
		記録も不十分である 内容も核心をついていないことも多い	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
		「書くことが苦手」と公言する職員もいる	ケア記録を記述することに対して苦手意識を抱えている援助者が存在し、ケア記録の作成が負担になっている。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、「何を書けば良いかわからない」「どのように記述すれば良いかわからない」といった状況が生じ、「書くことが苦手」と発言する援助者が現れていると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
17	個人の能力に差があり、指導しても理解しにくい職員もいる。	個人の能力に差があり、指導しても理解しにくい職員もいる	ケア記録について教育・指導を行っても、その理解力に援助者間で差が生じてしまう。	ケア記録の作成に必要な能力を一定の水準で保つための体制が、組織内で整備されていない（整備されていても効果的に機能していない）可能性がある。	【運用体制】 ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定の水準に保つための運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定の水準に保つための教育・指導方法の検討。	—

巻末表 17 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
18	書いた人によって記録すべき内容の必要・不要の認識が違いため、指導するにも難しい点がある。	書いた人によって記録すべき内容の必要・不要の認識が違いため、指導するにも難しい	ケア記録へ記述すべき情報が標準化されていないため、教育・指導をする際の判断基準がない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容が標準化されていないため、ケア記録について教育・指導する際の判断基準がなく、それを困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
19	ケア記録に記述すべき情報を取捨選択する能力を向上させたい。	ケア記録に記述すべき情報を取捨選択する能力を向上させたい	支援に不要な情報がケア記録に記述されていたり、支援に必要な情報がケア記録に記述されていないことがある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備されていない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、「支援に不要な情報がケア記録に記述されている」「支援に必要な情報がケア記録に記述されていない」といった状況が生じていると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
20	電子化されていて便利だが、PC入力が苦手な人は、記録自体入力したがる傾向にある。大切な情報(体調変化・事故・ヒヤリハットなど)をちゃんと記録してくれているのか心配である。	PC入力が苦手な人は、記録自体入力したがる傾向にある	ケア記録を電子化しているが、パソコンへの入力作業を苦手とする職員が存在し、入力作業に負担を感じて情報を記述しない傾向にある。	パソコンの入力・操作に慣れていない援助者は、それが負担になりケア記録への入力を嫌厭している可能性がある。	<p>【媒体・書式】</p> パソコンの操作に慣れていない援助者でも極力負担なく入力できるケア記録の様式の検討。	—
21	援助者が多く介入していると様々な記録の記述方法があり、統一化が難しい。	援助者が多く介入していると様々な記録の記述方法があり、統一化が難しい	ケア記録の記述方法を統一したいが、どのように対処すれば良いのかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—

巻末表 18 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言いかえ	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
22	正確な記録を書けない職員がいる。	正確な記録を書けない職員がいる	ケア記録へ支援に必要な情報を記述できていない職員がいる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、適切な内容・記述でケア記録を作成できない援助者が存在すると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。</p>	—
23	必要な情報が記入されていないことがある。 継続した記録ができていない。 記録の時間がとりにくい。	必要な情報が記入されていないことがある	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 記入漏れ（記述忘れ）を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。</p>	—
		継続した記録ができていない				—
	記録の時間がとりにくい	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【作成時間】</b> ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p>	—	
24	ソフトに合わせた記述方法をしなければならぬので、自分の記述方法、記録したいことが書けなかつたりする。	ソフトに合わせた記述方法をしなければならぬので、自分の記述方法、記録したいことが書けなかつたりする	支援に必要な情報を記述しにくい書式のケア記録である。	支援に必要な情報を過不足なく記述できる書式が用いられていない。	<p><b>【媒体・書式】</b> 支援に必要な情報を過不足なく記述できる書式の検討。</p>	—

巻末表 19 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
25	ケア記録の指導方法がわからない。5W1Hの記述方法などの研究は行っているが、現実として記録に時間を割けない。 記録を読むことで、状況はわかるが、それをケアプランや課題改善のために活用できているかと言われると、大きな効果はないように感じる。 専門職(看護職・栄養職)は活用できていると思う。	ケア記録の指導方法がわからない	ケア記録についてどのように教育・指導を行えばよいか具体的な方法がわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録について教育・指導を行う際の基盤となるケア記録への記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。</p>	—
	記録に時間を割けない	利用者への対応(介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応)が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応(介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応)が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【作成時間】</b> ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p>	—	
	記録を読むことで、状況はわかるが、それをケアプランや課題改善のために活用できているかと言われると、大きな効果はないように感じる	支援の質的向上にケア記録が活かされていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性があり、これらを背景に、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	<p><b>【価値】</b> ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。</p> <p><b>【運用体制】</b> ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用により援助者を動機づけるための仕組みの検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。</p>	—	
26	把握するうえで記録は細かく記述する必要はあると思うが、入力作業に時間を費やし過ぎる。できるだけ簡単にしたい。 開示を意識した丁寧な言葉遣いで記録は本当に必要だろうか。文章が長くなり読むのに時間が掛かる。	入力作業に時間を費やし過ぎる できるだけ簡単にしたい	ケア記録を電子化しているが、その入力作業に時間を要するため、簡便な書式に変更したい。	援助者間で伝達・共有すべき情報が標準化されていないため、短時間で簡便に入力できる書式が採用されていないと考えられる。	<p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p>	—

巻末表 20 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念□前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
27	ケア記録の良い記述方法とは何なのか。統一して欲しいが、指導者がいない。	ケア記録の良い記述方法とは何なのか	ケア記録の記述方法について何を基準に「良い（正しい）」「悪い（誤り）」を判断すれば良いかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備されていない可能性がある。これにより、ケア記録の記述方法が標準化されておらず、その記述方法について「良い（正しい）」「悪い（誤り）」の判断が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
	統一して欲しいが、指導者がいない	ケア記録に関するルールを統一したいが、それを実行するために必要な知識・技術をもった人材がいない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録について教育・指導を行う際の基盤となるケア記録への記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—	
28	記録する時間と端末がない。個人の能力が低い。	記録する時間と端末がない	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、必要台数の入力端末が用意されていない可能性がある。		<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。
	個人の能力が低い	ケア記録を活用するうえで必要な能力の乏しい援助者がいる。	ケア記録の作成に必要な能力を一定の水準で保つための体制が、組織内で整備されていない（整備されていても効果的に機能していない）可能性がある。	<p>【運用体制】</p> ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定の水準に保つための運用体制の検討。	—	

巻末表 21 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
29	記録が必要であることやわかりやすい記述方法など、職員間での意識統一ができていない。また、記録を面倒だと思ってしまう人、必要と違ってだらだらと長文になってしまう人、不適切な表現が使用されるケースなどがある。さらに、せっかく記録を書いてもらってもそれを活用して行こうという意識もなかなか芽生えない。	記録が必要であることやわかりやすい記述方法など、職員間での意識統一ができていない	ケア記録の必要性に対する援助者からの共通理解・共通認識が得られておらず、ケア記録への記述内容や記述方法も標準化されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。さらに、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。これらの背景から、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	【価値】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【運用体制】 ケア記録の価値に対する援助者からの共通理解・共通認識を獲得し、その活用に援助者を動機づけるための仕組みの検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
		記録を面倒だと思ってしまう人、必要と違ってだらだらと長文になってしまう人、不適切な表現が使用されるケースなどがある	ケア記録の活用に対する援助者の意識が低い。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性があり、これらを背景に、ケア記録の活用に対する援助者への動機づけが図れていないと考えられる。	【価値】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【運用体制】 ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用に援助者を動機づけるための仕組みの検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
30	PC上での管理になるため、PC操作の得手・不得手により差が生じる。PC操作から指導が必要である。言葉や漢字を知らない、わからない職員も多い。	PC上での管理になるため、PC操作の得手・不得手により差が生じる	パソコン操作の苦手な援助者や語彙に乏しい援助者がいる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録に関わる教育・指導の体制も整備・機能しにくく、パソコンの操作や語彙に乏しい援助者への具体的な教育・指導の内容が見出せない状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録を用いるうえで実施すべき教育・指導の内容を標準化し、ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定水準に保つための教育方法・指導方法の検討。	—
		言葉や漢字を知らない、わからない職員も多い				—
31	ケア記録の指導法に困っている(職員によって表現力や読解力に大きな差があり、指導の際には初歩的な国語・文法からの指導が必要とされる)。	ケア記録の指導法に困っている(職員によって表現力や読解力に大きな差があり、指導の際には初歩的な国語・文法からの指導が必要とされる)	ケア記録の具体的な教育・指導の方法を見出せず、ケア記録の作成に必要な援助者の能力が、組織の求める一定の水準に保てていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、適切な内容・記述でケア記録を作成できない援助者が存在すると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、ケア記録の作成に必要な援助者の能力が、組織の求める一定の水準に保てていない状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ(記述忘れ)することなくケア記録に記述できる書式の検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—

巻末表 22 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
32	職員により記録内容にばらつきがあること。	職員により記録内容にばらつきがある	支援に必要な情報が適切な書き方で記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、適切な内容・記述でケア記録を作成できない援助者が存在すると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
33	記録内容に個人差が大きく、読みづらかったり、情報が不十分であったりする。記録に関する検討会(施設内での統一事項など)が必要。電子化すれば良いが、どのソフトが良いか情報収集に時間を要す。電子化する予算(資金)の不足。	記録内容に個人差が大きく、読みづらかったり、情報が不十分であったりする	支援に必要な情報が適切な書き方で記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、適切な内容・記述でケア記録を作成できない援助者が存在すると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されることから、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
		記録に関する検討会(施設内での統一事項など)が必要	ケア記録に関する運用体制が整備されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備されていないため、ケア記録を用いるうえで標準化すべき統一事項について、組織規模で検討することができない。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
34	ケア記録の情報量が多いことはとても良いことだと思うが、記録を書くことに時間をとられることも多く、効率的で効果的なケア記録の記入方法について知りたい。	記録を書くことに時間をとられることも多く、効率的なケア記録の記入方法について知りたい	支援の質的向上に有用な情報をケア記録に記述したいが、ケア記録の作成に時間を要する。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき内容が標準化されておらず、それを記述する際に用いる媒体・書式が精査されていないことで、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—

巻末表 23 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
35	現場にプリセプター制があり、直接指導する人がいるので指導しづらい。 終業後に残業して記録をとっているのが、指摘しづらい(修正を頼みづらい)。	現場にプリセプター制があり、直接指導する人がいるので指導しづらい	ケア記録の誤りを新人職員に教えたいが、プリセプター制を設けているため、誤りを指摘して良いか判断に困る。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、プリセプター制が採用されているが、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容が標準化されていないため、プリセプター以外の援助者がプリセプティに指導をしてよいか、判断に困る状況が生じると考えられる。	<b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 <b>【教育・指導】</b> 現場で効率的・効果的に実践・応用できるケア記録の教育・指導の内容を標準化する方法の検討。	—
		終業後に残業して記録をとっているのが、指摘しづらい(修正を頼みづらい)	勤務時間内にケア記録を作成する時間がなく、ケア記録の作成を勤務時間内に終えることができない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	<b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 <b>【作成時間】</b> ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 <b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 <b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
36	記録の指導をできる人がいない(研修の機会がなかった)。組織として認識・理解の統一化と体制の確立。	記録の指導をできる人がいない(研修の機会がなかった)	ケア記録についてどのように教育・指導を行えばよいか具体的な方法がわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録について教育・指導を行う際の基盤となるケア記録への記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 <b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 <b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 <b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。 <b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—
		組織として認識・理解の統一化と体制の確立	ケア記録の必要性に対する援助者からの共通理解・共通認識が得られていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の活用が支援の質的向上に有用であり、その活用から期待できる具体的な効果について、援助者からの共通理解・共通認識が得られていないと考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性があり、これらを背景に、ケア記録に対する援助者の認識・理解に齟齬が生じていると考えられる。	<b>【価値】</b> ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 <b>【運用体制】</b> ケア記録の価値に対する援助者から共通理解・共通認識を獲得し、その活用による援助者を動機づけるための仕組みの検討。 <b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—

巻末表 24 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
37	記述事項の見直しやソフト導入の検討が必要(エクセルで式計算を用いながら文章作成しているが、記述したい内容への変更が困難である)。	記述事項の見直しやソフト導入の検討が必要(エクセルで式計算を用いながら文章作成しているが、記述したい内容への変更が困難である)	支援に必要な情報を記述しにくい書式のケア記録である。	支援に必要な情報を過不足なく記述できる書式が用いられていない。	【媒体・書式】 支援に必要な情報を過不足なく記述できる書式の検討。	—
38	指導をしても数日するとともに戻ってしまう。	指導をしても数日するとともに戻ってしまう	ケア記録について指導を行っても、指導内容が定着しない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録を用いるうえで実施すべき教育・指導の内容を標準化し、ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定水準に保つための教育方法・指導方法の検討。	—
39	ケア記録が電子化されたことで、パソコン入力に慣れていない職員は、記録がなかなか入れられない。	パソコン入力に慣れていない職員は、記録がなかなか入れられない	パソコン操作の苦手な職員がいるため、入力作業に時間を要する。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録に関わる教育・指導の体制も整備・機能しにくく、パソコンの操作が苦手な援助者に対する必要な教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録を用いるうえで実施すべき教育・指導の内容を標準化し、ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定水準に保つための教育方法・指導方法の検討。	—
40	病院の記録との違いがあり、どの程度の内容を書くべきか迷うこともあった。	病院の記録との違いがあり、どの程度の内容を書くべきか迷うこともあった	病院と介護の記録は着眼点異なるため、どのような事柄をケア記録に記述すべきか判断に困った。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき内容が精査されていないため、援助者間で伝達・共有すべき情報が、組織規模で標準化されていない可能性がある。ケア記録の教育・指導の体制も適切に機能せず、その具体的な方法を見出すのが困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述内容を教育・指導する方法の検討。	—
41	ケア記録の表現の統一が図られていない。	ケア記録の表現の統一が図られていない	援助者ごとにケア記録へ記述する単語・用語・文章表現が異なる。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—

巻末表 25 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
42	生活相談員や介護支援専門が家族面接した際に、その内容がケア記録とは別に記録されているため、他の職種が閲覧する機会がない(共有しにくい)。	生活相談員や介護支援専門が家族面接した際に、その内容がケア記録とは別に記録されているため、他の職種が閲覧する機会がない(共有しにくい)	異なる書式のケア記録が職種ごとに存在し、情報が一元管理されていないため、他職種間で利用者の情報を共有することが難しい。	他職種間で共有すべき情報を同一の書式で一元的に管理されていない。	【媒体・書式】 支援に必要な情報を一元的に集約・管理できる書式の検討	—
43	記録についての勉強会をしても効果が続かない。ケアプランのモニタリングに必要な記録が少ない。これらの課題の改善方法がわからない。	記録についての勉強会をしても効果が続かない	ケア記録についての勉強会を行っても、その効果が続かず定着しない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録に関わる教育・指導の体制も整備・機能しにくく、ケア記録についての勉強会を行っても、その効果が継続せず、定着しにくいと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録を用いるうえで実施すべき教育・指導の内容を標準化し、ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定水準に保つための教育方法・指導方法の検討。	—
		ケアプランのモニタリングに必要な記録が少ない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを 방지、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ(記述忘れ)を防止、継続性・一貫性のある記述のできるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ(記述忘れ)を防止、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
		これらの課題の改善方法がわからない	ケア記録の課題を解決するために、どのように対応すれば良いかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。このため、ケア記録に関わる課題が生じて、組織規模で議論する機会がないと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
44	ケアプランに関する部分は、作成しにくい(書式・文字の大きさなど)。モニタリングはソフトウェアに入っているものだけでなく、自分たちに適したレイアウトや文字で作成して行くという視点も大事だと思う(第2表はとくに)。	ケアプランに関する部分は、作成しにくい(書式・文字の大きさなど)	支援に必要な情報を記述しにくい書式のケア記録である。	書式のレイアウトや文字の大きさを自由に改変できず、支援に必要な情報を過不足なく記述できる書式が用いられていない。	【媒体・書式】 レイアウトや文字の大きさなど支援に必要な情報を記述しやすい書式の検討。	—
45	電子化されていないため、記録の転記作業に時間がかかる。	電子化されていないため、記録の転記作業に時間がかかる	ケア記録の作成時に転記作業が伴い、時間を要する。	ケア記録へ記述すべき情報が標準化されておらず、ケア記録へ記述される情報も一元的に管理されていないため、転記作業が発生しケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【媒体・書式】 支援に必要な情報を一元的に集約・管理できる書式の検討。	—

巻末表 26 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
46	機能訓練での評価など(専門的なことも含めて)をケア記録にすべて残した方が良いのかわからない。現在は、すべてを残していない。自分の覚え書きとしては残したいが、ケアを行ううえで、他職種にとって必要でない膨大な情報を、記録をすることは気が引ける。	機能訓練での評価など(専門的なことも含めて)をケア記録にすべて残した方が良いのかわからない	ケア記録にどの程度の情報を記述すべきかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき内容が精査されていないため、援助者間で伝達・共有すべき情報が、組織規模で標準化されていない可能性がある。ケア記録の教育・指導の体制も適切に機能せず、その具体的な方法を見出すのが困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述内容を教育・指導する方法の検討。	—
47	変化や問題のある利用者の記録が多く、利用者が1日どのように過ごしたか生活のリズムを掴むことができない。24時間シートなどの記録は必要と思われるが、大きな労力が必要であり、介護職によって記録の記入方法が違う場合もある一方で、記録方法を統一して行くのにも時間がかかる。	変化や問題のある利用者の記録が多く、利用者が1日どのように過ごしたか生活のリズムを掴むことができない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述ができるケア記録の書式の検討。 【教育・指導】 記入漏れ(記述忘れ)を防ぎ、継続性・一貫性のある記述を習得させるための教育・指導の方法の検討。	—
		介護職によって記録の記入方法が違う場合もある	援助者によってケア記録の記述方法が異なる場合がある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
48	記録を電子化しているが、パソコン操作の苦手な職員は覚えるのに時間が必要で指導も手間をとる。タイピングができない職員は記録に時間を要する。	記録を電子化しているが、パソコン操作の苦手な職員は覚えるのに時間が必要で指導も手間をとる。タイピングができない職員は記録に時間を要する	ケア記録を電子化しているが、パソコン操作の苦手な職員は操作の習得や入力作業に時間を要し、操作を教えるのにも時間を要する。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録に関わる教育・指導の体制も整備・機能しにくく、パソコンの操作が苦手な援助者に対する必要な教育・指導が実施されていないと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【教育・指導】 ケア記録を用いるうえで実施すべき教育・指導の内容を標準化し、ケア記録の作成に必要な援助者の能力を一定水準に保つための教育方法・指導方法の検討。	—

巻末表 27 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
	(回答者から得たデータ)	テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
49	記録に関する教育・指導はとて難しく、記述方法の統一化など、マニュアル作成が必要と思われる。	記録に関する教育・指導はとて難しく、記述方法の統一化など、マニュアル作成が必要と思われる	ケア記録に関わるマニュアルが標準化されていないため、教育・指導が難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述すべき内容や援助者間で共有すべき情報、ケア記録の記述方法、媒体・書式が標準化されていないと考えられる。また、ケア記録に関わる教育・指導の体制も整備・機能しにくく、教育・指導の具体的な内容について標準化されていないため、ケア記録の作成に必要な援助者の能力が、組織の求める一定の水準で保てていない状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討	—
50	ケア記録の記述方法の統一が難しい。利用者の状態の記録に、記録者の解釈・主観が出やすい。	ケア記録の記述方法の統一が難しい	援助者によって異なるケア記録の記述方法を統一するのが難しい。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録へ記述する内容やそれを記述する方法が組織内で標準化されておらず、援助者ごとに用いる単語や用語、文章表現が異なると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が組織内で標準化されていないため、それらに関わる明瞭な判断基準がなく、ケア記録の教育・指導を困難にさせていると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
51	必要な情報をわかりやすく記録できず、わかりにくい。医療用語が使われ、全職員が理解できる表現ができていない。	必要な情報をわかりやすく記録できず、わかりにくい。医療用語が使われ、全職員が理解できる表現ができていない	ケア記録に医療用語が使われ、読解できないことがある。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述方法が標準化されておらず、それに関わる教育・指導が困難な状況にあると考えられる。このことから、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
52	担当している利用者が多い(110名)ため、把握や情報収集が難しい。	担当している利用者が多いため、把握や情報収集が難しい	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい。	支援に必要な情報を検索・集約するのが難しい書式のケア記録を使用している可能性がある。	<p>【媒体・書式】</p> 支援の過程で必要な情報を検索・集約しやすいケア記録の書式の検討。	—
53	記録に漏れがないか確認するのに時間がかかる。	記録に漏れがないか確認するのに時間がかかる	記述漏れの確認に時間を要する書式である。	短時間で記述漏れの確認を行にくい書式のケア記録である。	<p>【媒体・書式】</p> より短い時間で記述漏れの確認を行える書式の検討。	—
54	記録の内容を週単位で把握できるようにしたい。	記録の内容を週単位で把握できるようにしたい	利用者の状態を週単位で把握できない書式である。	利用者の状態を週単位で把握できない書式のケア記録である。	<p>【媒体・書式】</p> 利用者の状態を週単位で把握できる書式の検討。	—

巻末表 28 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
	(回答者から得たデータ)	テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
55	記録に結果しか記述されていないため、結果に至るまでの経過がわからない。	記録に結果しか記述されていないため、結果に至るまでの経過がわからない	支援に必要な情報がケア記録に記述されていない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録への記述内容を精査したうえで、記入漏れを防ぎ、継続性・一貫性のある記述のできる書式が採用されていない可能性がある。また、記入漏れを防ぐための教育・指導が実施されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
56	要点をうまくまとめられない。ケア記録に自信を持ってない。	要点をうまくまとめられない	ケア記録に記述すべき事柄は理解できているが、それを簡潔に文章で伝えることができない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述方法が標準化されておらず、それに関する教育・指導が困難な状況にあると考えられる。このことから、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
		ケア記録に自信を持ってない	ケア記録を用いるために必要な能力が備わっていないか不安である。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。このため、作成したケア記録が適切な内容・記述であるか援助者が不安を抱えやすい状況にあると考えられる。	<p>【運用体制】</p> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。	—
57	利用者の変化を数カ月単位で振り返ることが難しい。介護職と看護職の記録をひとつの書式で行っているため、記述が不便である。	利用者の変化を数カ月単位で振り返ることが難しい	利用者の状態を数カ月単位で把握できない書式である。	利用者の状態を数カ月単位で把握できない書式のケア記録である。	<p>【媒体・書式】</p> 利用者の状態を数カ月単位で把握できる書式の検討。	—
		介護職と看護職の記録をひとつの書式で行っているため、記述が不便である	同じ場所・同じ媒体で複数の援助者がケア記録を作成するため、同じタイミングで記述することができない。	同じ場所・同じ媒体で複数の援助者がケア記録を作成するため、同じタイミングで記述することができない。	<p>【媒体・書式】</p> 複数の援助者が場所を問わず、同じタイミングで記述できるケア記録の書式の検討。	—

巻末表 29 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
58	記録する時間の捻出方法。 職員に対する記録の指導方法がわからない。ケアの質を向上させるために、援助者が必要としている情報を把握し、それに基づいて正しく記録を行う方法がわからない。	記録する時間の捻出方法	利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるため、ケア記録の活用に必要な情報を記述するための時間が確保できない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述よりも利用者への対応（介助・見守り・声掛け・ナースコールへの対応）が優先されるなかで、援助者が集中してケア記録を記述できる時間が提供されていない。また、支援に必要な情報を短時間でケア記録へ記述できる書式が採用されておらず、ケア記録の作成に時間を要している可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【作成時間】 ケア記録を作成する時間を捻出・確保するための方法の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。	—
	職員に対する記録の指導方法がわからない	ケア記録についてどのように教育・指導を行えばよいか具体的な方法がわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録について教育・指導を行う際の基盤となるケア記録への記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—	
	ケアの質を向上させるために、援助者が必要としている情報を把握し、それに基づいて正しく記録を行う方法がわからない	ケア記録へどのような情報を、どのように記述すればよいかわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録の記述内容や記述方法、書式が標準化されておらず、適切な内容・記述でケア記録を作成することが困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の記述内容や記述方法が標準化されていないことが推測されるため、ケア記録の教育・指導に必要な体制の整備やその内容も標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【媒体・書式】 より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。 【教育・指導】 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。	—	

巻末表 30 ケア記録に関する困りごと（つづき）

番号	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
		テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
59	ケア記録の指導者がいない。	ケア記録の指導者がいない	ケア記録についてどのように教育・指導を行えばよいか具体的な方法がわからない。	支援の質的向上にケア記録を活用するための運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、ケア記録について教育・指導を行う際の基盤となるケア記録への記述内容や記述方法、媒体・書式が標準化されておらず、教育・指導が困難な状況にあると考えられる。また、ケア記録の教育・指導に必要な体制も整備されていない可能性がある。	<p><b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。</p> <p><b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。</p> <p><b>【媒体・書式】</b> より短時間で支援に必要な情報を、記述漏れ（記述忘れ）することなくケア記録に記述できる書式の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> 支援の質的向上にケア記録を活用するための具体的な方法やケア記録の活用に必要な知識・技術を教育・指導する方法の検討。</p>	—

## 卷末資料②

### —SCATによる半構造化面接の分析結果—

巻末表 31 半構造化面接の分析結果

項目	調査番号	発話者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>	
				テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題	
書式に関する困りごとはあるか	1	聴き手	貴施設ではケア記録の書式について何か困りごとはあるか。	—	—	—	—	—	
	2	回答者	現時点で特に課題だと認識しているのは、「〇〇さんに皮下出血があった」「〇〇さんに座薬を使った」などの事実は記録へ記述される。しかし、それに「職員がどのような対応をしたのか」「対応して利用者はどうなったのか」という対応・結果の記述漏れである。	「職員がどのような対応をしたのか」「対応して利用者はどうなったのか」という <b>対応・結果の記述漏れ</b>	利用者に何らかの出来事があったことは事実として記述されるが、そこで対応した内容や対応したことによる結果の記述漏れが生じる。	事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が必要であることを援助者が認識しておらず、そのような記述が習慣化されていない可能性がある。 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を補助する書式ではない可能性がある。	【 <b>媒体・書式</b> 】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を行う必要性和、事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の扱い方に関する教育・指導。	—	
	3	回答者	援助に経過観察を必要とする場合に、事実・対応・結果という一連の流れを辿らなければならないが、現在使用している記録の書式ではその流れを時系列で辿ることが難しい状況にある。	現在使用している記録の書式ではその流れを <b>時系列で辿ることが難しい</b>	事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が困難な書式である。	事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述の必要性が組織規模で認識されていない可能性がある。	【 <b>媒体・書式</b> 】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の検討。	—	
	4	聴き手	どのような場面で対応・結果の記述漏れが生じてしまうのか。	—	—	—	—	—	—
	5	回答者	利用者に皮下出血があった場合に、その事実だけが記述され、「医務へ報告したのか」「処置をしたのか」という結果について記述が漏れていることがある。皮下出血ができた原因やその対応策については、「情報共有シート」という書類に記述している。	結果について <b>記述が漏れている</b>	利用者に何らかの出来事があったことは事実として記述されるが、そこで対応した内容や対応したことによる結果の記述漏れが生じる。	事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が必要であることを援助者が認識しておらず、そのような記述が習慣化されていない可能性がある。 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を補助する書式ではない可能性がある。	【 <b>媒体・書式</b> 】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を行う必要性和、事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の扱い方に関する教育・指導。	—	
	6	回答者	便秘の利用者へ下剤対応した場合に、下剤対応したという事実は記録へ記述されるが、排便の有無について記述が漏れていることがある。排便が無く、その記述が漏れていたことで、経過観察を次の勤務帯に引き継いでいない場合もある。	排便の有無について <b>記述が漏れている</b> ことがある 排便が無く、その記述が漏れていたことで、 <b>経過観察を次の勤務帯に引き継いでいない</b> 場合もある	利用者に何らかの出来事があったことは事実として記述されるが、そこで対応した内容や対応したことによる結果の記述が漏れることで、引き継ぎに必要な情報が伝達されず、利用者に不利益が生じる。				—
			7	回答者					食事形態を変更した場合に、その事実は記録へ記述されるが、「問題なく摂取できているのか」といった変更後の摂食状況に関する記述が漏れていることがある。このため、食事形態を変更して支障がないか判断をする際に、その評価が難しい。

巻末表 32 半構造化面接の分析結果（つづき）

項 目 査	番 号	発 話 者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の概念	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
書式に関する困りごとはあるか	8	回答者	事故対策も同様で、事故原因を分析し、改善策を検討・実行するが、「改善策が有効に働いているのか」「働いていないのか」という経過について記述が漏れていることがある。一定期間の経過観察を経て、改善策の有効性を評価する際に、評価時の根拠になる情報が漏れているため、有効性の評価が難しい。	「改善策が有効に働いているのか」「働いていないのか」という経過について記述が漏れている	利用者何らかの出来事があったことは事実として記述されるが、そこで対応した内容や対応したことによる結果の記述が漏れることで、援助に対する適切な評価が行えない。	事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が必要であることを援助者が認識しておらず、そのような記述が習慣化されていない可能性がある。 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を補助する書式ではない可能性がある。	【媒体・書式】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の検討。 【教育・指導】 事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述を行う必要性と、事実・対応・結果という一連の経過を辿った記述が行える書式の扱い方に関する教育・指導。	—
		聴き手	現状で最も課題と認識されているのは、「記録の書式に起因する対応・結果の記述漏れ」ということだが、なぜそのような課題が生じてしまうのか。	—	—	—	—	—
	10	回答者	原因はいくつか考えられるが、一つ目はキャンパスノートで記録を行っている点にある。現在の記録方法は、キャンパスノートへ事務連絡や援助に必要な利用者に関する特記事項を備忘録的に記述し、利用者に関する情報はパソコンへ転記する形で電子化している。また、当施設は多床型特養の4フロアで構成され、最も多いフロアでは50名近く入居している。この入居者数に対して、「食事摂取量が少ない」「排便が出ていない」「入浴時に皮下出血を発見した」などの特記事項をキャンパスノートに記述すると膨大な量になる。この膨大な量が、キャンパスノートへ随時記述されるため、経過観察事項が記述されていても、それが膨大な情報量に埋もれてしまい、対応・結果を辿らなければいけない事柄が漏れてしまい、結果として記述漏れに繋がっている。	キャンパスノートへ事務連絡や援助に必要な利用者に関する特記事項を備忘録的に記述に記述	利用者に関わる情報や事務連絡など様々な情報が混在し一つ一か所に集約され、事実・対応・結果という経過を辿りつつ利用者ごとに情報が記述できる書式ではない。 混在する情報のなかから、経過観察に必要な情報を一つずつ拾う手間が生じるため、そこで拾い損ねた情報が記述漏れに繋がっている。	利用者に関わる情報や業務連絡に関する情報など、援助者間で交わされる情報が整理されていないため、それを記述する書式も整備できない状況にあると考えられる。	【媒体・書式】 援助者間で交わされる情報の内容に適した書式の検討。	—
			この膨大な量が、キャンパスノートへ随時記述されるため、経過観察事項が記述されていても、それが膨大な情報量に埋もれてしまい、対応・結果を辿らなければいけない事柄が漏れてしまい、結果として記述漏れに繋がっている					—
	11	回答者	二つ目はメモを取る余裕がない点である。現場の職員は援助を行いながら記録を書いている。入浴介助を行っているときや、メモを取ろうとしたときに利用者から呼ばれたときなど、すぐにメモを取ることが難しい状況がある。記録よりも利用者への対応が優先されるため、それが落ち着いたときに記録へ記述しようと思っても、「書くのを忘れてしまう」ということがある。この点も記述漏れの原因と考えられる。	メモを取る余裕がない 現場の職員は援助を行いながら記録を書いている すぐにメモを取ることが難しい状況がある 記録よりも利用者への対応が優先されるため、それが落ち着いたときに記録へ記述しようと思っても、「書くのを忘れてしまう」ということがある	利用者への対応が優先される一方で、援助の最中にメモを取ることが難しい環境下にあるため、ケア記録に記述すべき情報の記述漏れが生じてしまう。	利用者への対応の終了後に、ケア記録へ簡易に記述できる媒体・書式が採用されていない可能性がある。	【媒体・書式】 ケア記録へ簡易的に記述できる媒体(携帯端末など)・書式(援助に必要な情報を負担なく迅速に記述できる書式など)の検討。	—
								—

巻末表 33 半構造化面接の分析結果（つづき）

項 目 査	番 号	発 話 者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>		
				テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題		
書式に関する困りごとはあるか	12	回答者	<p>三つめは勤務体制に起因する点である。当施設は多床型の特養でフロアごとの入居者も多いため、日中に勤務する職員を多めに配置している。一人の職員が全利用者に関わるのではなく、一人の利用者にパート職員を含め多数の職員が関わる。</p> <p>個々の職員も忙しく動いているため、記録するタイミングで利用者に呼ばれたりし、記録の書き忘れが生じやすくなる。</p> <p>なかでも、交代勤務で職員は利用者支援にあたるので、今日出勤していた職員が、明日も出勤するとは限らない。本来報告すべき情報を報告し忘れた職員が、翌日に公休の場合には、情報を追いかけることができない。なので、記録の書き忘れがないか、個々の職員に突っ込んで、一日のできごとを整理しながら記録をする職員が必要である。</p>	<p>一人の職員が全利用者に関わるのではなく、<b>一人の利用者にパート職員を含め多数の職員が関わる</b></p> <p>記録するタイミングで利用者に呼ばれたりし、<b>記録の書き忘れが生じやすくなる</b></p> <p>本来報告すべき情報を報告し忘れた職員が、翌日に公休の場合には、<b>情報を追いかけることができない</b></p> <p>記録の書き忘れがないか、個々の職員に突っ込んで、<b>一日のできごとを整理しながら記録をする職員が必要</b></p>	<p>日中は一人の利用者に対して複数名の介護職が関わり、その利用者に関わる情報が分散しやすい状況にあるため、報告や記述の漏れが無い情報管理する職員を必要とする。</p>	<p>ユニット型特養のように一人の介護職が複数名の担当利用者ごとに食事・排泄・入浴・コミュニケーションなどの場面で関わるため、その介護職に情報が集中しやすい。一方、多床型特養のように複数名の介護職が一人の利用者へ対応する場合は、食事・排泄・入浴・コミュニケーションなどの場面ごとに対応する介護職が異なりやすく、そこで得た情報が一人の介護職に集中しにくく、分散しやすい状況になる。このため、報告や記述の漏れが無い利用者に関わる情報を管理する職員を必要とするが、その体制が設けられていないことで、記録への記述漏れが生じやすくなっていると考えられる。</p>	<p><b>【運用体制】</b> とりわけ多床型施設の場合には、利用者へ対応する場面ごとに職員が異なりやすいため、情報の収集・集約・整理を担当する職員設置の検討。</p>	—		
			13	聞き手	<p>その他に、書式について抱えている困りごとはあるか。</p>	—	—	—	—	—
			14	回答者	<p>「記述した文章がわかりにくい」ということがある。</p>	<p><b>「記述した文章がわかりにくい」</b></p>	<p>書き手の文意・要旨が簡潔に記述されておらず読解が難しい。</p>	<p>ケア記録の運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。</p>	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> ケア記録の書き手が文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。</p>	—
			15	聞き手	<p>なぜ「記述した文章がわかりにくい」という課題が生じるのか。</p>	—	—	—	—	—
	16	回答者	<p>文章をわかりやすく記述できるようにする方法がわからないため、どのように指導すればよいかわからない。</p>	<p>文章をわかりやすく記述できるようにする<b>方法がわからない</b></p> <p>どのように指導すればよいのか<b>わからない</b></p>	<p>書き手の文意・要旨を読み手へ簡潔に伝達する方法が見出せていない。</p>	<p>ケア記録の運用体制が整備・機能していない可能性がある。これにより、書き手の文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）が標準化されておらず、それに関する教育・指導を困難にさせていると考えられる。</p>	<p><b>【運用体制】</b> ケア記録の記述方法に関する教育・指導の内容を検討するための運用体制の検討。</p> <p><b>【記述方法】</b> ケア記録の書き手が文意・要旨を的確に読み手へ伝達するための記述方法（用語・単語・文章表現）の検討。</p> <p><b>【教育・指導】</b> ケア記録の記述方法に関する適切な教育・指導の方法の検討。</p>	—		

巻末表 34 半構造化面接の分析結果（つづき）

項 目 査	番 号	発 話 者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
				テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(口前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
書式に関する困りごと	17	聴き手	その他に、書式について抱えている困りごとはあるか。	—	—	—	—	—
	18	回答者	当施設では、パソコンと紙(キャンパスノート)を併用し、紙に記述した記録をパソコンに転記するという方法をとっているが、その転記作業が面倒であるという意見が職員からあがっている。	紙に記述した記録をパソコンに転記するという方法をとっているが、その <b>転記作業が面倒</b>	日中は一人の利用者に対して複数名の介護職が関わり、その利用者に関わる情報が分散しやすい状況にあるため、パソコンへの転記作業の手間は生じるが、紙媒体へ情報を集約せざるを得ない状況にある。	ユニット型特養のように一人の介護職が複数名の担当利用者ごとに食事・排泄・入浴・コミュニケーションなどの場面で関わるため、その介護職に情報が集中しやすい。一方、多床型特養のように複数名の介護職が一人の利用者へ対応する場合は、食事・排泄・入浴・コミュニケーションなどの場面ごとに対応する介護職が異なりやすく、そこで得た情報が一人の介護職に集中しにくく、分散しやすい状況になる。このため、紙媒体へ情報を集約する必要がある一方で、紙媒体を使用することへの理解を援助者から得られていない可能性がある。	【運用体制】 ケア記録の運用方法について、援助者からの理解・同意・協力を得るために、適切な説明を行う必要がある。 【媒体・書式】 紙媒体からパソコンへの転記作業に極力労力を要さず、援助に必要な情報を漏らすことなく記述できる書式の検討。	—
		回答者	転記の問題に関しては、各フロア4名以上の日勤職員がいるので、当日出勤した職員が個々の役割のなかで得た情報をメモ代わりに一か所へ集約するには、紙の方が使い勝手が良いのではないかと考えている。たしかに、パソコンへ転記するのは手間だが、日勤職員が複数名いる以上は、パソコンと紙の併用は致し方ないのではないかとと思う。記録が紙に書かれていることで、記録に対応・結果が書かれていなかった場合に、赤字で「何をしたのか」「だからどうなった」というように添削がしやすい。これが紙に書かれず、すべてパソコンに入力されてしまうと、添削のしようがないので、それはそれで困ってしまう。ただし、パソコンと紙を併用し続ける場合には、事実・対応・結果を見やすく、読解しやすい書式へ変更しなければならぬと考えている。	当日出勤した職員が個々の役割のなかで得た情報をメモ代わりに一か所へ集約するには、 <b>紙の方が使い勝手が良いのではないかと</b>  パソコンへ転記するのは手間だが、 <b>日勤職員が複数名いる以上は、パソコンと紙の併用は致し方ないのではないかと</b>				—
20	聴き手	貴施設の援助者は勤務時間内にケア記録を作成し終えているか。	—	—	—	—	—	
勤務時間内に作成し終えているか	21	回答者	当施設では、パソコンと紙(キャンパスノート)を併用し、紙に記述した記録をパソコンに転記するという方法をとっているが、勤務時間内に作成し終えるのが難しい場合もある。とくに、紙に書かれたことをパソコンへ入力する際に、パソコン操作に慣れていない職員が対応するときは、入りに時間が掛かるため、勤務時間内に入力し終わらないことがある。	勤務時間内に作成し終えるのが <b>難しい場合もある</b>  <b>パソコン操作に慣れていない職員が対応するときは、入りに時間が掛かるため、勤務時間内に入力し終わらないことがある</b>	紙媒体に記述された情報をパソコンへ転記・入力する際に、その操作に慣れていない職員は時間を要する傾向にあり、勤務時間内に入力を完了し切れない場合がある。	パソコンで採用しているケア記録の書式が、パソコンの操作に慣れていない職員でも、出来る限り負担なく入力できる書式ではない可能性がある。	【媒体・書式】 パソコンの操作に慣れていない援助者でも極力負担なく入力できるケア記録の様式の検討。	—
		—	—	—	—			

巻末表 35 半構造化面接の分析結果（つづき）

項目 調査	番号	発話者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1> テキスト中の注目すべき語句	<2> テキスト中の語句の言い換え	<3> 左を説明するようなテキスト外の内容	<4> テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	<5> 疑問・課題
勤務 時間 内に 作成 し終 えて いる か	22	回答者	ただし、勤務時間内でパソコンへ入力する時間は与えるようにしている。各フロア4名以上の日勤職員が援助にあっているが、人手不足な状況なので、一人の職員が長時間パソコンの入力作業をしてしまうと、利用者のケアが疎かになり、職員の負担も増大する。このため、利用者のケアに一区切りついたタイミングなどで、パソコンへの入力作業にあたって支障がないか、職員間で同意を取ってもらいながら、入力作業にあたるよう呼び掛けている。 しかし、新人職員など当施設での職歴が浅い職員には、自分から「記録のパソコン入力をさせて下さい」と先輩職員に言わせるのは酷なので、先輩職員の方から後輩職員に声を掛けるようお願いしている。	勤務時間内でパソコンへ入力する <b>時間は与えるようにしている</b>	紙媒体に記述された情報をパソコンへ転記・入力する際に、その操作に慣れていない職員は時間を要する傾向にあり、勤務時間内に入力を完了し切れない場合がある。	パソコンで採用しているケア記録の書式が、パソコンの操作に慣れていない職員でも、出来る限り負担なく入力できる書式ではない可能性がある。	<b>【媒体・書式】</b> パソコンの操作に慣れていない援助者でも極力負担なく入力できるケア記録の様式の検討。	—
			人手不足な状況なので、一人の職員が長時間パソコンの入力作業をしてしまうと、 <b>利用者のケアが疎かになり、職員の負担も増大する</b>				—	
記述 すべ き情 報を ルー ル化 して いる か	23	聞き手	貴施設ではケア記録に書かなければならない情報をルール化していますか。	—	—	—	—	—
	24	回答者	マニュアルなどを通じてルールは設けていない。必要だと感じているが、ルール化するための有効な方法がわからず困っている。	マニュアルなどを通じてルールは <b>設けていない</b>	記述内容（記録へ記述しなければならない情報）について、有効な方法を見出すことができず、その標準化が図れていない。	記述内容（記録へ記述しなければならない情報）について、検討する必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。	<b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 <b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。	—
			ルール化するための <b>有効な方法がわからず困っている</b>	—				
	25	聞き手	なぜ貴施設ではケア記録に書かなければならない情報をルール化していないのか。	—	—	—	—	—
26	回答者	記録について現状では、援助のなかで経過観察が必要な事柄について、事実・対応・結果という流れで経過を辿らなければならないが、とくに <b>対応・結果の記述漏れがある</b>	援助のなかで経過観察が必要な事柄について、事実・対応・結果という流れで経過を辿らなければならないが、とくに <b>対応・結果の記述漏れがある</b>	記述内容（記録へ記述しなければならない情報）について、有効な方法を見出すことができず、その標準化が図れていない。	記述内容（記録へ記述しなければならない情報）について、検討する必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。	<b>【運用体制】</b> 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 <b>【記述内容】</b> 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。	—	
		この課題への有効な対処法が <b>見出せず、ルール化できていない</b>	—					

巻末表 36 半構造化面接の分析結果（つづき）

項 目 査	番 号	発 話 者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
				テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
書き方をルール化しているか	27	聞き手	貴施設ではケア記録の書き方について何らかのルールを設けているか。	—	—	—	—	—
	28	回答者	マニュアルなどを通じてルールは設けていない。必要だと感じているが、ルール化するための有効な方法がわからず困っている。	マニュアルなどを通じて <b>ルールは設けていない</b>	記述方法（記録の書き方）について、有効な方法を見出すことができず、その標準化が図れていない。	記述方法（記録の書き方）について、検討する必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
			必要だと感じているが、 <b>ルール化するための有効な方法がわからず困っている</b>	—				
	29	聞き手	なぜ貴施設ではケア記録の書き方に関するルールを設けていないのか。	—	—	—	—	—
	30	回答者	記録について現状では、「記述した文章がわかりにくい」という課題ある。この課題への有効な対処法が見出せず、ルール化できていない状況にある。しかし、現状の課題を鑑みると、今後はルール化していく必要があると考えている。	【 <b>記述した文章がわかりにくい</b> 】という課題ある	記述方法（記録の書き方）について、有効な方法を見出すことができず、その標準化が図れていない。	記述方法（記録の書き方）について、検討する必要性が生じず、その標準化が取り組まれてこなかったと考えられる。	【運用体制】 支援の質的向上にケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録を記述する際に用いる単語・用語や文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 ケア記録の記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
			<b>有効な対処法が見出せず</b> 、ルール化できていない状況にある	—				
教育・指導の体制はあるか	31	聞き手	貴施設ではケア記録に関する教育・指導の体制を設けているか。	—	—	—	—	—
	32	回答者	職員を記録の外部研修へ単発で行かせることはあったが、教育・指導のシステム自体は設けていない。記録の有効な教育・指導の方法がわからず困っている。	教育・指導のシステム自体は <b>設けていない</b>	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならない情報）・記述方法（記録の書き方）について、有効な方法を見出すことができず、記録に関する教育・指導が行えていない状況にある。	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならない情報）・記述方法（記録の書き方）について、検討する必要性が生じず、教育・指導の体制が設けられなかったと考えられる。	【価値】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【運用体制】 ケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【記述内容】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【記述方法】 援助者がケア記録へ記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【教育・指導】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
記録の <b>有効な教育・指導の方法</b> がわからず困っている	—							

巻末表 37 半構造化面接の分析結果（つづき）

項 目 査	番 号	発 話 者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
				テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の内容	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
教育・指導の体制はあるか	33	聞き手	なぜ貴施設ではケア記録に関する教育・指導の体制を設けていないのか。	—	—	—	—	—
	34	回答者	新年度に行う新人研修で「事故報告書」の書き方は教えている。また、日々の援助で記録をどのように扱っていけば良いのか、それに対して気づきが得られるような外部研修を管理職対象で実施している。しかし、「なぜ援助に記録が必要なのか」「記録へ記述しなければならぬ情報」「記録の書き方」「記録をどのように活かすべきか」といったものについては、 <b>有効な教育・指導の方法を見出すことができなかった</b> 。	「なぜ援助に記録が必要なのか」「記録へ記述しなければならぬ情報」「記録の書き方」「記録をどのように活かすべきか」といったものについては、 <b>有効な教育・指導の方法を見出すことができなかった</b> 。	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならぬ情報）・記述方法（記録の書き方）について、有効な方法を見出すことができなかったことで、記録に関する教育・指導が行えていない状況にある。	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならぬ情報）・記述方法（記録の書き方）について、検討する必要性が生じず、教育・指導の体制も設けられてこなかったと考えられる。	【 <b>価値</b> 】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【 <b>運用体制</b> 】 ケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>記述内容</b> 】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【 <b>記述方法</b> 】 援助者がケア記録へ記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—
	35	回答者	しかし、職員に教育・指導するときは、マニュアルなど何らかの基準になるものが必要である。指導にあたる職員はそれを拠り所に、職員の教育・指導を行うが、記録に関してそれが用意できていないので、今後は記録についてのマニュアルを作成し、教育・指導にあたる職員のために、その基準となるものを提供できるように努めたいと考えている。 最近では、専門学校や大学で福祉を学んだ職員が入職するようになり、その職員たちは介護や福祉に関する基礎的な知識を持ち合わせている。現場で実務を教えた際に、覚えるのが早いので、基礎の大切さを改めて感じる。この点からも、今後は記録についてのマニュアルを作成し、それに基づいて教育・指導を行う必要があると考えている。	職員に教育・指導するときは、 <b>マニュアルなど何らかの基準になるものが必要</b>  職員の教育・指導を行うが、 <b>記録に関してそれが用意できていない</b>	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならぬ情報）・記述方法（記録の書き方）について、有効な方法を見出すことができなかったことで、記録に関する教育・指導が行えていない状況にある。	価値（なぜ援助に記録が必要なのか／記録をどのように活かすべきか）・記述内容（記録へ記述しなければならぬ情報）・記述方法（記録の書き方）について、検討する必要性が生じず、教育・指導の体制も設けられてこなかったと考えられる。	【 <b>価値</b> 】 ケア記録の有用性やその活用から得られる具体的な効果の検討。 【 <b>運用体制</b> 】 ケア記録を効率的・効果的に活用するうえで望ましい運用体制の検討。 【 <b>記述内容</b> 】 援助者間で伝達・共有すべき情報を標準化する方法の検討。 【 <b>記述方法</b> 】 援助者がケア記録へ記述する際に用いる単語・用語・文章表現を標準化する方法の検討。 【 <b>教育・指導</b> 】 組織内で標準化された記述内容・記述方法を教育・指導する方法の検討。	—

巻末表 38 半構造化面接の分析結果（つづき）

項目	調査	番号	発話者	テキスト (回答者から得たデータ)	<1>	<2>	<3>	<4>	<5>
					テキスト中の注目すべき語句	テキスト中の語句の言いかえ	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念(前後や全体の文脈を考慮して)	疑問・課題
運用・管理の体制があるか		36	聞き手	貴施設ではケア記録に関する運用・管理の体制を設けているか。	—	—	—	—	—
		37	回答者	体制は設けていない。	<b>体制は設けていない</b>	記録の運用・管理の体制を設けていない。	記録の運用・管理の体制について有効な方法を見出せていない状況にある。	<b>【運用体制】</b> ケア記録を効率的・効果的に運用できる運用体制の検討。	—
		38	聞き手	なぜ貴施設ではケア記録に関する運用・管理の体制を設けていないのか。	—	—	—	—	—
		39	回答者	記録の運用・管理について有効な方法がわからず困っている。	記録の運用・管理について <b>有効な方法がわからず困っている</b>	記録の運用・管理の体制について有効な方法を見出すことができなかったため、運用・管理の体制を設けられていない状況にある。	記録の運用・管理の体制について有効な方法を見出せていない状況にある。	<b>【運用体制】</b> ケア記録を効率的・効果的に運用できる運用体制の検討。	—
ケア記録が必要か		40	聞き手	貴施設ではケア記録を活用することが、利用者支援の向上に有益だと思うか。	—	—	—	—	—
		41	回答者	そもそも援助に必要な情報が記録に書かれていなければ、何もできない。	情報が記録に書かれていなければ、 <b>何もできない</b>	個々の利用者に関する情報を援助者間で共有しなければ援助は不可能であり、それを媒介する記録もなければ援助は行えない。	交代勤務のなかで利用者に援助を行うことから、情報がなければ利用者の状態把握は不可能であり、記録がなければ情報を援助者間で共有することも不可能である。	<b>【価値】</b> 援助における情報とケア記録の重要性に対する援助者からの理解を獲得するための方法の検討。	—
		42	回答者	当施設は全部で4フロアの多床型特養で、ユニット型施設とは異なり、1フロアあたり20名以上の利用者が入居し、一番多いフロアで50名近く入居している。一人の職員が利用者のことを的確に把握できるのは、せいぜい一人か二人だと思う。例えば、利用者の既往歴であっても、各フロアに所属している職員が、担当フロアの利用者全員の既往歴を把握することは難しい。1フロアあたり20名以上の利用者が入居しているなかで、記録なくして援助を行うことは不可能である。	一人の職員が利用者のことを的確に把握できるのは、 <b>せいぜい一人か二人だと思う</b>  <b>記録なくして援助を行うことは不可能</b>				—

## 卷末資料③

—本研究調査で使⽤した調査票—

施設長殿

日本福祉介護情報学会  
北館一弥**特別養護老人ホームにおけるケア記録の活用状況に関する実態調査の協力依頼**

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度は、ご多忙のなか大変恐れ入りますが、表題の調査にご協力を頂きたく、調査票を送付致しました。詳細は以下の通りとなっております。ご確認をお願い申し上げます。

なお、本調査は日本福祉介護情報学会の2017年度研究・実践企画奨励助成により実施するものです。

**【調査の主旨】**

ケアワークに関する記録(以下、ケア記録)は、ケアプランに基づく一貫性・継続性のあるチームケアを支える重要な要素であり、その活用によって支援の質的向上が期待できます。

しかし、多くの援助者はケア記録を活用する必要性を認識している一方で、ケアワークの現場でその有効性を組織規模で実感できるだけの理論モデルや実践モデルは未だ構築できていないため、ケア記録をどのように利用者支援に活かせばよいか、試行錯誤されていると思われます。

以上の背景から、本調査はケア記録を利用者支援に活かす実践モデルを開発するための基礎的調査として、実施するものです。

**【用語の定義】**

本調査では、「ケア記録」「活用」「ケア記録の活用」を次のように定義しております。この定義を踏まえ、ご回答をお願い申し上げます。

**■ ケア記録**

ケアワークの実践過程で、援助者が「利用者の状態」「援助の内容」「援助の結果」「援助の結果に対する評価」「援助者の気づきや考察」などを記述するのに用いるアセスメント・モニタリング・カンファレンス・事故報告などの記録全般。

**■ 活用**

特定の方法を効率的かつ効果的に用いて目的を実現すること。

**■ ケア記録の活用**

個々の利用者に対する援助の質的向上を前提としたうえで、援助者が効率的・効果的に下記の目的を実現するためにケア記録を用いる行為。

- 1) 援助の備忘録
- 2) 援助に関わる法的な証拠資料
- 3) 同職種・他職種・他機関との連携
- 4) 一貫性・継続性のある援助の展開
- 5) 援助内容の評価
- 6) 利用者の人物像・課題・要望の把握
- 7) ケア記録の指導を介した援助者の専門性の向上
- 8) 援助に対する利用者やその家族への理解促進
- 9) 援助に関する組織のノウハウの向上
- 10) 福祉サービスに関する調査・研究

### 【調査の回答者】

本調査のご回答者は、介護部門の責任者一名にご回答頂きますよう、お願い申し上げます。

### 【回答の取り扱い】

ご回答は日本社会福祉学会の研究倫理規定に基づき、厳正に処理を致します。具体的な取り扱いは、下記の通りです。

- ①本調査で得たすべてのデータや資料は、本研究以外の目的では一切利用致しません。
- ②貴施設名および個別の回答は、すべて匿名化したうえで、統計処理をいたします。

### 【調査結果の公表】

本調査の結果は、日本福祉介護情報学会の公式ウェブサイト(<http://jissi.jp/>)で、平成 30 年度内に公表する予定です。

### 【本調査に関するお問い合わせ】

本調査の内容にご不明な点が御座いましたら、下記までご連絡をお願い申し上げます。

- 責任者：北館一弥(きただてかずや)
- 電話：080-3418-9959
- メール：kazuya.kitadate@gmail.com

敬具

記

- 調査依頼書：1 通
- 調査票：1 通

以上

利用者支援の質的向上が介護現場に求められるなかで、ケア記録の活用はそれに貢献する重要な取り組みといえます。

本研究はケア記録の活用から利用者支援の質的向上を検討するものですが、その成果はより多くの介護現場で実践できる実用的なものでなければ意味がありません。さらに、ケア記録は援助者が利用者に関わる貴重な時間を割いて作成するため、利用者支援の質的向上に資する記録を、短時間で作成できる効率性も重要な視点といえます。

以上の点を本研究では重視しつつ、実践モデルの構築を図りますが、そのためには皆様のご尽力が不可欠です。ご多忙のなか、大変恐れ入りますが、重ねてご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

質問 1. ご回答者のキャリアについて、下記の項目に沿ってご回答をお願いします。

職種	<input type="checkbox"/> 施設長 <input type="checkbox"/> 介護職 <input type="checkbox"/> 看護職 <input type="checkbox"/> 生活相談員 <input type="checkbox"/> ケアマネ <input type="checkbox"/> 栄養職 <input type="checkbox"/> リハビリ職
役職名	自由記述：
実務経験	年 月(他施設での勤続経験がある場合には、その経験年数も合算してご記入下さい)
学歴	<input type="checkbox"/> 高等学校卒 <input type="checkbox"/> 専門学校卒 <input type="checkbox"/> 大学卒 <input type="checkbox"/> 大学院卒

質問 2. 介護職の皆さんが利用しているケア記録の書式について困っていることはありますか。

<input type="checkbox"/> ある	どのような困りごとを抱えていますか(自由記述)。【例】項目が狭くて書きにくい/記述する項目が少ない 等
<input type="checkbox"/> ない	ケア記録の書式についてどのような工夫を施していますか。

質問 3. 介護職の皆さんは日々のケア記録を勤務時間内に作成し終えていますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> 作成し終えている	勤務時間内にケア記録を作成し終えるために、どのような工夫をしていますか(自由記述)。
<input type="checkbox"/> 作成できていない	左記の回答をされた理由をご記入下さい(自由記述)。

質問 4. 介護職の皆さんはケア記録に記述すべき情報をルール化していますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> している	どのようなルールを設けていますか (自由記述)。【例】支援について事実・対応・結果・変化・考察を記述する 等
<input type="checkbox"/> していない	左記の回答をされた理由をご記入下さい(自由記述)。

質問 5. ケア記録の書き方をマニュアル等でルール化していますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> ルール化している	どのようなルールを設けていますか (自由記述)。【例】原則的に専門用語は略語で記述しない 等
<input type="checkbox"/> ルール化していない	左記の回答をされた理由をご記入下さい(自由記述)。

質問 6. 介護職の皆さんを対象としたケア記録に関する教育・指導の機会を設けていますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> 設けている	どのような教育・指導を行っていますか (自由記述)。【例】定期的に外部講師を招聘して研修を行っている 等
<input type="checkbox"/> 設けていない	左記の回答をされた理由をご記入下さい(自由記述)。

質問 7. 貴施設ではケア記録に関する運用・管理の体制(記録委員会など)を設けていますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> 設けている	どのような仕組みを設けていますか(自由記述)。
<input type="checkbox"/> 設けていない	なぜ仕組みを設けていませんか(自由記述)。

質問 8. 介護職の皆さんはケア記録の活用が支援の質的向上に有益だと思えますか。選択肢ひとつに☑をつけ、選択肢の右側にある質問にもご回答をお願いします。

<input type="checkbox"/> 思う	左記の回答をされた理由をご記入ください(自由記述)。
<input type="checkbox"/> 思わない	